

平成27年度

かほく市教育委員会
点検及び評価報告書

平成28年8月

かほく市教育委員会

はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成27年度のかほく市教育委員会の活動を振り返るとともに、「かほく市教育振興基本計画」に基づき具体的施策について、自ら事務事業の点検及び評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々からの意見もいただいて作成したものです。

かほく市教育委員会は、「自ら考え ともに学び 明日をひらく人づくり」を目指すため、創造力と生きがいを育む教育の推進に努力してまいります。

平成28年8月

かほく市教育委員会

目 次

教育委員会の活動状況	1
(1) 総合教育会議の開催・審議状況	1
(2) 教育委員会会議の開催・審議状況	1
(3) 教育委員の主な活動状況	4
点検及び評価	6
基本目標 1 確かな学力をはぐくみ一人一人の個性を大切にします	
基本的方向 1 -(1) 確かな学力の育成	10
基礎、基本の定着と活用力の向上	
家庭学習の定着と充実	
学習指導法の工夫改善	
教師の資質の向上と組織的な学校経営	
教育センターの研修事業	
基本的方向 1 -(2) 豊かな人間性の育成	14
道徳教育の充実	
特別支援教育の充実	
いじめ、不登校や問題行動の防止	
キャリア教育の推進	
コミュニケーション能力の育成	
幼稚園、保育園と小学校、中学校の連携	
基本的方向 1 -(3) 児童生徒の体力増進と運動能力の向上	18
学校における運動機会の充実	
健康づくり、体力向上をめざす教育の充実	
安全でおいしい給食の提供	
基本目標 2 家庭・地域・学校が連携し 教育力の向上に取り組みます	
基本的方向 2 -(1) 家庭教育活動の充実	21
子育て支援のためのサポート体制の強化 <教育委員会所管外>	
家庭教育に関する学習機会の拡充	
体験活動によるコミュニケーションの促進	
基本的方向 2 -(2) 人材の育成と地域活動の活性化	22
地域づくり人材の育成	
地域活動の支援体制の充実	
情報の共有化とネットワークづくり	
学校支援ボランティア事業の推進	
コミュニティ・スクール等の設置	
基本的方向 2 -(3) 学校から家庭、地域への働きかけ	25
学校の教育活動の発信	
学校開放、学校行事への参加促進	
学校と連携した家庭教育の啓発	
基本的方向 2 -(4) 関係機関の連携強化	27
教育相談体制の充実	

問題を抱える子ども等の自立支援
児童の放課後活動の充実（児童館、学童保育クラブ）＜教育委員会所管外＞
高等教育機関との連携
少年愛護センターとの連携

基本目標 3 生涯にわたって学ぶ意欲を持ち 豊かな人間性を育成します

基本的方向 3 -(1) ともに学び合う機会の拡充 2 9

学習情報の発信
学習成果を生かした社会参加の促進
生涯学習フェスティバルの開催
市民大学講座事業の展開

基本的方向 3 -(2) 地域のコミュニティ活動の推進 3 1

地域住民が主体となる学習環境の整備
地域活動の拠点となる施設の整備
地域活動団体への支援体制の確立
町会・区との連絡体制の整備

基本的方向 3 -(3) 読書環境の充実と読書活動の推進 3 3

図書館サービスの強化
子どもの読書活動の推進
市立図書館と学校図書館との連携
ICT化への取り組み

基本的方向 3 -(4) 博物館活動の充実と情報発信 3 5

石川県西田幾多郎記念哲学館の充実
うみっこらんど七塚「海と渚の博物館」の充実

基本目標 4 郷土の自然、歴史、文化を継承し 芸術文化活動の充実を図ります

基本的方向 4 -(1) ふるさと学習の充実 3 7

地域に根ざした学習活動の推進
四季の風土を感じるプログラムの実施
かほく市ゆかりの人物の紹介と全国への発信

基本的方向 4 -(2) 芸術文化活動の促進と支援 3 9

すぐれた芸術に触れる機会の提供
文化活動団体・個人への支援
地域や世代を越えての交流の促進

基本的方向 4 -(3) 未来に伝える文化財の保護と活用 4 1

歴史学習の充実
考古、歴史、民俗資料の活用
国、県、市指定文化財の保護と活用
地域学習や学校授業への活用
保管活用施設等の充実
職員の専門性の強化

基本目標 5 豊かなスポーツライフの創造をめざします

基本的方向 5 -(1) 生涯スポーツの推進 4 3

スポーツ推進委員の役割
体を動かす機会の提供と日常化の促進
他団体との連携による健康・体力づくりの取組

基本的方向 5 -(2) 競技スポーツの拡充・強化、底辺の拡大	4 5
各種スポーツ大会の実施	
児童、生徒の競技力向上のための大会の開催・支援	
競技スポーツ指導者の育成と指導体制の強化	
全国大会等出場者への激励	
基本的方向 5 -(3) スポーツ団体の育成支援と連携	4 7
スポーツ少年団への支援	
体育協会との連携	
総合型地域スポーツクラブへの支援と連携	
健康クラブへの支援	
各種団体の相互連携支援	
基本目標 6 時代に応じた魅力ある学習環境を作ります	
基本的方向 6 -(1) 安心して学べる教育環境の充実	4 9
学校防災マニュアルの策定	
自分の身を守る教育の充実	
育英制度、奨学金制度の充実	
老朽建物の改築・改修	
非構造部材の耐震化	
I C T 機器の整備	
環境に配慮した教育設備の充実	
基本的方向 6 -(2) 生涯学習の拠点となる施設の適正管理と活用	5 2
生涯学習センターの運営管理	
地域交流施設の有効活用	
基本的方向 6 -(3) スポーツ施設整備の推進と活用	5 3
施設の統合計画の推進	
施設機能の充実・強化	
効率的な管理・運営	
学校体育施設の有効活用	
基本目標 7 異なる文化や価値観を尊重し世界に通じる人づくりを進めます	
基本的方向 7 -(1) 多文化共生社会および国際化に対応した教育の充実	5 5
国際交流事業の推進	
多様な文化に対する理解の推進	
実践的な外国語教育の充実	
基本的方向 7 -(2) 人権教育の推進	5 7
学校における人権教育	
人権意識の向上に向けた活動の推進	
資料	5 8

教育委員会の活動状況

(1) 総合教育会議の開催・審議状況

平成27年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に定める総合教育会議を1回開催し、3件の議件について協議・調整しました。

平成27年度総合教育会議開催状況

開催日	協議・調整事項
平成27年7月30日	かほく市総合教育会議運営要綱について かほく市教育大綱の策定について かほく市立小中学校の配置について

(2) 教育委員会会議の開催・審議状況

平成27年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に定める職務について、及び「市長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任する規則」の規定に基づき、教育委員会会議を11回開催し、議案20件について審議しました。

平成27年度教育委員会会議開催状況

回(開催日)	審議決定事項
平成27年第4回 (平成27年4月28日)	選挙第1号 かほく市教育委員会委員長の選挙について 選挙第2号 かほく市教育委員会委員長職務代理者の指定について 報告事項 ・平成26年度かほく市教育センター事業報告について ・平成27年度かほく市教職員研修基本計画について ・各種組織の委員の確定報告について ・平成27年度学校経営戦略プランに係る査定結果について ・中学校教科書採択協議会等委員について ・メスキルヒ市との姉妹都市提携30周年記念事業について
平成27年第5回 (平成27年6月1日)	議案第11号 かほく市男女共同参画審議会委員の委嘱について 議案第12号 かほく市男女共同参画苦情処理委員の委嘱について 報告事項 ・平成27年度第1回かほく市社会教育委員会議の結果報告について
平成27年第6回 (平成27年6月25日)	議案第13号 平成26年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について 報告事項 ・平成27年度6月補正予算について ・平成27年度加賀地区中学校体育大会の結果報告について ・「いしかわ県民文化振興基金 文化活動支援事業」について ・(仮称)かほく市子ども総合センター計画図について
平成27年第7回 (平成27年7月23日)	議案第13号 平成26年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について(継続) 議案第14号 平成28年度使用中学校教科用図書の採択について

回（開催日）	審議決定事項
	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度第 2 回かほく市社会教育委員会議の結果報告について ・ 第 67 回石川県民体育大会日程・会場・選手一覧について ・ 第 28 回 JAPAN TENT（かほく市プログラム）について ・ 平成 27 年度石川県中学校体育大会の結果について ・ 第 5 回かほく市子ども議会について ・ 平成 27 年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 6 月認定結果について
平成 27 年第 8 回 (平成 27 年 8 月 19 日)	議案第 13 号 平成 26 年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続） 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 67 回石川県民体育大会成績について ・ 第 12 回かほく市生涯学習フェスティバルについて ・ 平成 27 年度北信越中学校総合競技大会等成績一覧について ・ 平成 27 年度新規国際交流員（CIR）・外国語指導助手（ALT）について ・ 平成 27 年度かほく市立小中学校運動会日程及び臨席について ・ 平成 27 年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 7 月認定結果について
平成 27 年第 9 回 (平成 27 年 9 月 17 日)	議案第 15 号 職員の懲戒処分について 議案第 16 号 かほく市生涯学習センター条例施行規則の一部を改正する規則について 議案第 17 号 平成 27 年度かほく市教育委員会表彰被表彰者の決定について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度姉妹都市交流メスキルヒ市青少年訪問団受入事業について ・ 平成 27 年度 9 月補正予算について ・ 平成 27 年度全国中学校体育大会等成績一覧について
平成 27 年第 10 回 (平成 27 年 10 月 29 日)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ かほく市版コミュニティスクール「学校を核とした地域活力（地域教育力）向上事業」について ・ 第 12 回かほく市成人式について ・ 第 12 回かほく市立志式について ・ 平成 27 年度河北郡市中学校新人大会の結果について ・ 第 46 回ジュニアオリンピック大会（陸上競技）の結果について
平成 27 年第 11 回 (平成 27 年 11 月 26 日)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 12 回かほく市制施行記念継走大会について ・ 平成 27 年度加賀地区中学校新人体育大会の結果について
平成 27 年第 12 回 (平成 27 年 12 月 24 日)	議案第 18 号 かほく市学校運営協議会規則の制定について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 12 月認定結果について ・ 平成 27 年度かほく市特別支援教育推進委員会の結果について ・ 平成 27 年度 12 月補正予算について ・ 「第 2 次かほく市総合計画」について

回（開催日）	審議決定事項
平成 28 年第 1 回 (平成 28 年 2 月 4 日)	<p>議案第 1 号 平成 28 年度かほく市教育目標について</p> <p>議案第 2 号 かほく市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 12 回かほく市成人式参加状況について ・ 第 12 回かほく市制施行記念継走大会の参加申込状況について ・ 家庭教育指針の策定について ・ 「メスキルヒ市交流事業」(青少年訪問団派遣) 日程の決定について ・ 平成 27 年度第 3 回かほく市社会教育委員会議の結果報告について ・ 平成 28 年度当初予算(案)について ・ 平成 27 年度 3 月補正予算(案)について ・ 学校訪問まとめ等について ・ 平成 27 年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 1 月認定結果について
平成 28 年第 2 回 (平成 28 年 3 月 23 日)	<p>議案第 3 号 かほく市学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について</p> <p>議案第 4 号 かほく市学校運営協議会を置く学校の指定について</p> <p>議案第 5 号 かほく市学校運営協議会委員の委嘱について</p> <p>議案第 6 号 かほく市社会教育委員の委嘱について</p> <p>議案第 7 号 かほく市文化財保護審議会委員の委嘱について</p> <p>議案第 8 号 かほく市少年愛護センター運営委員会委員の委嘱について</p> <p>議案第 9 号 かほく市スポーツ推進審議会委員の委嘱について</p> <p>議案第 10 号 かほく市スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>議案第 11 号 石川県西田幾多郎記念哲学館館長の委嘱について</p> <p>議案第 12 号 石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員会委員の委嘱について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 12 回かほく市制施行記念継走大会の結果について ・ 平成 27 年度第 4 回かほく市社会教育委員会議の結果報告について ・ かほく市立学校コーディネーターの人事について ・ 平成 28 年度 主要事業計画(案)について ・ かほく市要保護及び準要保護児童生徒就学援助費交付要綱の一部改正について ・ かほく市女性職員活躍推進計画について

(3) 教育委員の主な活動状況

教育委員が出席した主な活動等

年 月 日	活 動 内 容
平成27年 4月 3日	平成27年度初任・新任教職員辞令交付式
平成27年 4月 6日	平成27年度かほく市立小中学校入学式
平成27年 5月11日	平成27年度河北郡市教育委員会連合会定期総会
平成27年 5月12日	平成27年度石川県教育委員会連合会定期総会
平成27年 5月15日	前期学校訪問（大海小学校・高松小学校・金津小学校）
平成27年 5月19日	前期学校訪問（外日角小学校・宇ノ気小学校・高松中学校）
平成27年 5月28日	前期指導主事訪問（高松小学校）
平成27年 5月29日	メスキルヒ市姉妹都市提携30周年記念式典
平成27年 6月 1日	前期学校訪問（宇ノ気中学校・河北台中学校・七塚小学校）
平成27年 6月 2日	前期指導主事訪問（金津小学校）
平成27年 6月 5日	前期指導主事訪問（外日角小学校）
平成27年 6月 5日	第71回寸心忌・献花式
平成27年 6月 7日	第12回かほく市総合体育大会開会式
平成27年 6月19日	前期指導主事訪問（七塚小学校）
平成27年 6月20日	平成27年度加賀地区中学校体育大会
平成27年 6月22日	前期指導主事訪問（大海小学校）
平成27年 6月29日	前期指導主事訪問（河北台中学校）
平成27年 7月 3日	前期指導主事訪問（宇ノ気小学校）
平成27年 7月 8日	前期指導主事訪問（高松中学校）
平成27年 7月10日	第67回石川県民体育大会出場選手壮行会
平成27年 7月13日	前期指導主事訪問（宇ノ気中学校）
平成27年 8月 4日	石川県市町教育委員会セミナー
平成27年 8月 8日	第67回石川県民体育大会（～9日）
平成27年 8月10日	第5回かほく市子ども議会
平成27年 8月30日	サンドヒルかほく市2015グラウンド・ゴルフ大会
平成27年 9月 5日	中学校運動会（高松中学校、河北台中学校、宇ノ気中学校）
平成27年 9月12日	小学校運動会（高松小学校、七塚小学校、外日角小学校、宇ノ気小学校）
平成27年 9月16日	後期指導主事訪問（河北台中学校）
平成27年 9月26日	小学校運動会（大海小学校、金津小学校）
平成27年10月 1日	後期指導主事訪問（高松小学校）
平成27年10月 2日	市指定公開研究発表会（河北台中学校）

年 月 日	活 動 内 容
平成27年10月 7日	第2回かほく市小学生体育大会
平成27年10月15日	後期指導主事訪問（外日角小学校）
平成27年10月16日	平成27年度石川県市町教育委員会連合会研究大会
平成27年10月20日	平成27年度姉妹都市交流青少年受入事業（～28日）
平成27年10月23日	県指定「いしかわ道德教育推進事業」公開研究発表会（七塚小学校）
平成27年10月27日	後期指導主事訪問（七塚小学校）
平成27年10月30日	市指定公開研究発表会（宇ノ気小学校）
平成27年10月31日	平成27年度かほく市教育委員会表彰式
平成27年11月 8日	平成27年度かほく市PTA大会
平成27年11月 4日	後期指導主事訪問（大海小学校）
平成27年11月 6日	河北郡市教育委員会連合会研修会
平成27年11月13日	後期指導主事訪問（金津小学校）
平成27年11月17日	後期指導主事訪問（宇ノ気中学校）
平成27年11月18日	後期指導主事訪問（宇ノ気小学校）
平成27年11月19日	かほく市教育委員会県外（長野県駒ヶ根市）研修（～20日）
平成27年11月29日	第2回かほく市民交流大会 室内ペタンク大会
平成27年12月 3日	後期指導主事訪問（高松中学校）
平成28年 1月10日	第12回かほく市成人式
平成28年 1月29日	第12回かほく市立志式
平成28年 2月 1日	後期学校訪問（河北台中学校、金津小学校、高松小学校）
平成28年 2月 4日	後期学校訪問（宇ノ気中学校、大海小学校、七塚小学校）
平成28年 2月15日	後期学校訪問（宇ノ気小学校、外日角小学校、高松中学校）
平成28年 3月 6日	第12回かほく市制施行記念継走大会
平成28年 3月11日	平成27年度かほく市立中学校卒業式
平成28年 3月16日	平成27年度かほく市立小学校卒業式
平成28年 3月29日	平成27年度かほく市立小中学校教職員離任式

点検及び評価

(1) 総括

平成27年度に実施した具体的施策について、かほく市教育振興基本計画（計画期間：平成26年度～平成35年度）に基づく「基本的方向」22項目の達成状況として、次のとおり4段階に区分し評価する。

- A：計画（最終）目標を達成している
- B：計画どおり進んでいる
- C：計画より遅れている
- D：具体的な取組がなされていない

「基本的方向」22項目の4段階による達成状況及びその分析

- A：0項目（0%）
- B：20項目（91%）
- C：2項目（9%）
- D：0項目（0%）

かほく市教育振興基本計画の「基本的方向」の区分で、達成状況により評価した場合、上記のような結果となり約9割が「計画どおり進んでいる」である。全体を通して概ね順調に事業等を展開できていると考える。

今後も教育環境及び学習環境等社会情勢の動向を的確に捉え、スクラップ・アンド・ビルドを行いながら創意工夫を凝らし、各種の施策を推進して計画（最終）目標の達成につなげたい。

平成27年度新たに取り組んだ施策等の概要

- ・児童生徒の学校生活における個々の意欲や満足度、及び学級集団の状態を測定するQ U調査を実施し、その結果を活用し、「学力の向上」、「いじめや不登校の改善」、「学校生活の意欲が低下している子どもの発見」などに取り組み、問題行動への初期段階での対応に役立てた。
- ・金津小学校の大規模改造事業について、平成27年度に国の補助事業の採択を受け、工事着手した。（平成28年度へ繰越）
- ・高松小学校、大海小学校、宇ノ気小学校、高松中学校の普通教室等のエアコン設置に向け、実施設計を実施した。
- ・平成28年度からの県内初となるコミュニティ・スクールのスタートに向け、校長会との協議・調整、関係規則の整備、学校運営協議会の組織準備、学校コーディネーター人材の選定のほか、町会区長会、公民館、子ども会、PTAなど関係役員への事前説明を行い、準備を進めた。

- ・西田幾多郎記念哲学館では、北陸新幹線開業年として、関東圏（東京・長野）への情報発信事業として、シンポジウム、講演会及び展示会を開催するとともに、西田幾多郎博士没後 70 年記念事業として、講演会を開催し、県外への情報発信を行った。
- ・ドイツメスキルヒ市との姉妹都市提携 30 周年を記念し、ツヴィック市長をはじめ、26 人の訪問団をかほく市に迎え、記念式典や市民交流音楽会を開催し、両市の絆をより一層深めることができた。
- ・平成 24 年度より 3 年間取り組んだ「地域づくり人材育成講座」については、地域づくりに関心の高い市民の参加は得られ、目的を達成したとの判断により、平成 27 年度から休止とし、今後、市民から開催の希望があれば検討することとした。

上記以外に、平成 27 年度は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、市独自の地方版総合戦略「かほく市創生総合戦略推進計画（計画期間：平成 27 年度～平成 31 年度）」（平成 27 年 10 月策定）に基づき、その計画の基本方針「特色ある教育体制の充実」である学校・地域・家庭が一体となった教育環境の充実、外国語活動の充実、きめ細かな指導体制の確保、地域住民を交えた学校支援体制の構築、就学環境のさらなる充実に取り組むこととした。基本方針「かほく市の特色を活かした地域の活性化」では、西田幾多郎記念哲学館の充実による人づくり事業について、今後、積極的に取り組むこととした。

また、「第 2 次かほく市総合計画（計画期間：平成 28 年度～平成 37 年度）」（平成 28 年 3 月策定）に基づき、基本方針の「教育・文化」において、基本的に「かほく市教育振興基本計画」を踏襲するとともに、更なる発展を目指し取り組むこととした。

（２）点検及び評価の方法

点検及び評価は、施策に基づく事業内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題などを示している。

また、点検及び評価にあたっては、教育に関し学識経験を有する方として、羽田輝雄氏、宮前昭夫氏、能任まち子氏から様々な意見や助言を得た。

(3) 昨年度の学識経験者からの主な意見に対する取組

昨年度の主な意見	左記に対する平成 27 年度 of 取組内容・成果
全般的に限られた予算や人員で、多岐にわたり事業展開をされている。教育委員会の仕事は、長い目で見ないと結果や効果が表れにくい分野であり、たいへん苦勞されている。	各種事業は、適切な評価を行い、継続すべきか判断が必要である。また、市民ニーズの多様化等により、きめ細かい事業展開が求められており、引き続き各種事業に取り組む。
単年度の委託事業や補助事業の場合、その事業が終わった後もどのように事業を継続し、また、事業を生かしているかを追跡調査してみることが大切である。	平成 25 年度からスタートした「地域活動補助金」事業については、将来的に有効か否かの見通しを持って事業の採択を進めたい。
成績表等の作成といった校務作業における PC ソフトを導入し、教職員の校務作業が簡素化できるような手立てを講じていく必要がある。	校務負担の軽減と効率化を図るため、平成 28 年度からの指導要録電子化に向けて調査・研究を行った。 (H28 年度はデータの管理運用について指導)
学校給食のアレルギー対応については、児童生徒一人一人の情報共有が重要であり、学校現場と栄養教諭、調理担当など関係者の連携が大切である。また、アレルギー体質の子どもが増加傾向にあり、これに対応するための施策を検討していただきたい。	「学校給食における食物アレルギー等対応マニュアル」に基づき、児童生徒の保護者、学校現場、栄養教諭、調理現場と情報共有しながら対応した。しかし、アレルギー対応の給食の提供については、現在の調理施設では物理的に対応できない。
学校の「いいメール」は、不審者情報や大会成績といった早く知りたい情報をいち早く知ることができ、有効な周知の手段だと思ふ。今後も積極的な運用を図ってほしい。	年度初めの校長研修会において、「いいメール」の保護者への登録依頼、不審者情報を含めた情報発信について運用を確認し、積極的な活用を各学校に依頼した。
学校支援ボランティアは現在、個人の登録が多いようであるが、地元企業や団体も登録できる仕組みを構築し、安定した体制でより充実したものにするべき。	企業や各種団体に対して、積極的な登録の呼びかけを行わなかった。 平成 28 年度からのコミュニティ・スクールの展開により、各種団体や企業関係人材の登録を目指す。
子どものしつけや生活習慣の定着は家庭の責任である。基本的なことができない子どもが多い現状においては、市 P T A や子ども会活動などを通して家庭教育に力を注いでいく必要があると思ふ。また、家庭教育の円滑な推進のためには、子育てという観点で、福祉部局と教育部局が連携を図り実践する方が円滑な推進につながる。	家庭での基本的な生活習慣の定着を推進するため、社会教育委員が中心となって「かほく市家庭教育指針(案)」の作成を進めた。 次年度(平成 28 年度)に啓発・活用を検討する。 家庭教育に関わる行政的取組の推進については、子育て支援課が「就学前」を、生涯学習課が「就学後」を主に担当しており、両部局の密接な連携を図る必要があると捉えている。
家庭教育の推進のためには、市 P T A として 3 年目の実践になる「親子コミュニケーションウィーク」に、より一層取り組み、親子が語り合いふれあう機会を設ける必要があるのではないか。	「親子コミュニケーションウィーク」については、市 P T A を中心に展開した。教育部(生涯学習課)では、親子の体験活動教室の充実を通してこれまで以上に、親子のふれあう機会の創出を図った。
教育委員会の仕事が多岐にわたり組織のスリム化が求められる中であって、生涯教育や家庭教育等の分野において、どこまで手を伸ばすかが課題であり検討すべき。	家庭教育(子育て)は、保護者が第一義的責任を負うものであることから、保護者や地域社会の住民に対する「家庭教育に関する啓発活動」としての講座・講演会を開催した。 今後も啓発を中心とした取組を展開する。

(4) 学識経験者の主な意見等

- ・これまでの教育委員長と教育長が一本化された(新)教育委員会制度がスタートした。社会情勢の急変、緊急案件に対して、迅速かつ柔軟な対応がとれる体制となるよう期待する。
- ・学校教育施策については、学力調査の結果を見ても、小学校すべての学年で35人以下学級導入によるきめ細かい指導により効果が表れている。学力調査で結果の悪かった中学校の「英語」について、外国語指導助手(ALT)の活用を含め、外国語活動の取組を検討するとともに、いじめや不登校への対応、特別支援教育についても、きめ細かな指導を望む。また、子どもと向き合う時間を確保するため学校の校務管理等についてICT化をさらに進めるなど、教職員の負担軽減対策を進めるとともに、児童生徒の個人情報の漏洩がないよう徹底した管理を指導すべきである。
- ・社会教育施策について、親子で参加する教室、子どもを対象とする教室など多くの事業に取り組んでいるが、教育行政で行う意義が見えない事業が見られる。行政として実施する事業、子ども会などの社会教育団体との連携や民間へ委託するなど役割分担について検討すべきである。
- ・家庭教育施策について、子育て環境を含めた社会情勢が変化し、その取組が年々難しくなっており、家庭教育の質の低下が気付きである。PTAと学校の連携も大切であるが、家庭教育の重要性について保護者一人一人が認識を深められるよう、教育委員会の施策だけではなく、他の部局との連携を含め、積極的な啓発・取組が必要である。また、子どもたちには、将来、家庭で生かされる道徳教育について検討すべきである。
- ・幼保小中の連携について、子どもたちは自分たちと違う世界に触れると目を輝かせる。これまでと違った体験・交流機会を増やすことも検討すべきである。
- ・平成28年度からスタートしたコミュニティ・スクールは、地域の皆さんにはまだ十分に理解されていない。地域への積極的なPRを願うとともに、学校と地域が共有できる取組を進めるべきである。
- ・災害時の拠点避難所となっている学校においては、防災マニュアル作成にとどまらず、いざという時に現場が混乱しないような訓練、打合せ等を早急に実施すべきである。

基本的方向 1 - (1) 確かな学力の育成

達成状況	B
------	---

基礎基本の定着と活用力の向上	
担当課	学校教育課

< 取組内容・成果 >

・小学校3年から中学校3年までを対象に、国・県・市事業にて学力調査を下記のとおり実施し、教職員の指導方法の改善に努めるため、自校採点を取り入れ、早期に学力等の現状分析を行い、指導改善につなげることができた。各学年及び学校間において、基礎学力及び活用力に較差が見られることから、特に、学力が低い学年においては、補充学習を設定するなど底上げとなる指導を実施した。

- * 小学3年生 (国語・算数 「市調査」)
 - * 小学4年生 (国語・算数 「県調査」)
 - * 小学5年生 (国語・算数 「市調査」)
 - * 小学6年生 (国語・算数・理科 「国調査」、社会「県調査」)
 - * 中学1年生 (国語・数学 「市調査」)
 - * 中学2年生 (国語・数学・理科・社会・英語 「市調査」)
 - * 中学3年生 (国語・数学・理科 「国調査」、英語・社会「県調査」)
- 行動調査は、国・県・市で学力調査に併せて実施している。

全国学力調査におけるかほく市の平均点と石川県の平均点の比較

学年・科目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	学年・科目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小学6年生	国語A (知識)	1.8	0.9	0.1	3.1	中学3年生	国語A (知識)	1.4	0.9	1.7	1.2
	国語B (活用)	2.7	0.8	0.4	0.9		国語B (活用)	1.9	1.8	5.5	2.0
	算数A (知識)	2.8	1.0	1.5	2.9		数学A (知識)	3.5	2.0	3.3	1.0
	算数B (活用)	4.0	1.0	4.2	2.3		数学B (活用)	5.0	1.7	3.0	1.0
	理科 (国・県)	0.7	0.3	0.3	1.6		理科 (国・県)	2.0	4.8	1.2	2.2

理科は H25, H26 は県調査

・平成24年度の学力調査で県平均を下回っていた小学6年生が3年後の中学3年生時の調査では、県平均を上回った。これは3年間できめ細かな指導を行うことができた成果である。

- ・平成27年度の学力調査結果において、小学校はすべての科目で全国・県平均を上回った。また中学校は、英語を除く、すべての科目で全国平均・県平均を上回る好成績であった。
- ・国及び県事業によって、小学校1年から4年までが35人以下学級であるが、引き続き市独自事業として小学校5年と6年において、35人以下学級を実施し、児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことで、児童が落ち着いて学習に取り組むことができた。また、少人数の利点を最大限に生かした指導を行うことができた。
 - * 平成25年度 小学校5年を対象に35人以下学級を導入 (講師2人採用)
 - * 平成26年度 小学校6年までを対象に35人以下学級を導入 (講師3人採用)
 - * 平成27年度 引き続き、小学校6年までを対象に35人以下学級を導入 (講師2人採用)
- ・教育委員会による学力向上ヒアリングを実施し、各校の課題を明確にするとともに、改善に向けた取組を具体的なものにすることができた。

< 課題 >

- ・学力調査の結果を踏まえ、学校組織として分析や原因究明を行い、引き続き県・市教委の指導主事を積極的に要請した授業改善など計画的に推進する必要がある。
- ・国・県が求める学力を教員が理解するため、全教員が自ら問題を解き、授業改善に結び付けなければならない。また、学力調査の過去問題を授業や補充学習に取り入れ、児童生徒が多くの問題に触れる機会を設ける必要がある。
- ・学力調査で中学校英語の平均点が数年間、県平均を下回っており、なかでも特定の学校の落ち込みが続いている。市全体をあげての組織的な改善策を講じる必要がある。

家庭学習の定着と充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・昨年度より「自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合は増加した。
- ・市学力向上部会（市学校教育研究会組織）に市指導主事が毎回参加し、指導助言を行うとともに、家庭学習のあり方について、研究を深め、「家庭学習の手引き」を作成した。

< 課題 >

- ・家庭学習は授業内容の定着につながることから、引き続き、家庭学習の充実に取り組む必要がある。
- ・自ら計画を立てて勉強する児童生徒はまだまだ少ないのが現状であり、家庭に協力を求める取組を工夫する必要がある。

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で 「自分で計画を立てて勉強し ている」と回答した児童生徒 の割合	小学校	59.0%	64.3%	64.2%	75%
	中学校	42.5%	57.8%	52.3%	75%

学習指導法の工夫改善

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

〔いしかわ道徳教育推進事業（県）〕

・七塚小学校

- 研究主題 -

「人・地域とのつながりを大切に、自ら学ぶ子どもをめざして
～ 学び合い、認め合う学習を通して ～」

- * 今後の道徳教育を見据え、自分の考え、相手の考えを聞き合い、議論する中でよりよい価値や自分の生き方について考えを深めていくことを大切にしたい授業を提案することができた。

公開研究発表会 期日 平成 27 年 10 月 23 日

〔学びの組織的実践推進事業（県）〕

・宇ノ気中学校(拠点校)、河北台中学校(連携校)

- 研究主題 -

「意欲を持って主体的に学習に取り組む生徒の育成
～ 組織的な学力向上システムの実践を通して ～」

- * 組織的かつ持続的に推進できる体制の確立（組織改編）を目指し、早期から科学的根拠に基づいた課題設定及び課題解決のための学力向上プランとその実施・検証行程を明確に示した「ロードマップ」の作成に当たり、役割の明確化や目標の数値化を図り、学校としての取組が可視化された。

〔能動的学習推進事業（県）〕

・高松中学校

- 研究主題 -

「自ら考え 豊かに表現する生徒の育成 ～ 伝え合う力を高める授業づくりを通して～」

- * アクティブ・ラーニングを取り入れ、ねらいを明確にした学習活動や学習形態を工夫した授業を各教科で実践した。言語技術トレーニングを活かした学習活動の共通実践により表現力が向上した。

〔学校教育研究事業（市）〕

・宇ノ気小学校

- 主 題 -

「学ぶ意欲を育てる授業の創造 ～思考力を高める授業づくりを通して～」

* 校内研究を推進することにより、教職員の研修を深め、学力向上を図る取組を行うことができた。

公開研究発表会 期日 平成 27 年 10 月 30 日

スーパーバイザー 筑波大学附属小学校教諭 青山 由紀 氏

・河北台中学校

- 主 題 -

「自ら考え、学び合う生徒の育成 ～話し合い、まとめる活動を通して～」

* 教職員の研修を深め、校内研究を推進することで、学校教育の振興及び生徒の学力向上を図ることができた。

公開研究発表会 期日 平成 27 年 10 月 2 日

スーパーバイザー 国語教育総合情報研究所 所長

福井大学教育地域科学部 准教授 松友 一雄 氏

平成 27 年度は、上記の 5 校が県指定研究・市指定研究を通して、学習指導方法の工夫改善や家庭・地域と連携した道徳教育の推進を図ることができた。

< 課題 >

- ・学力向上の成果を上げるための市指定研究のあり方について、抜本的に検討する必要がある。
- ・金沢教育事務所の指導主事を要請、県教育センターの校内サポート事業を活用するなど、指導主事から直接指導を受け、校内研究を通して、授業力の向上を図る必要がある。
- ・アクティブ・ラーニングに対する教職員の意識を高めるとともに、多くの授業実践例や情報を収集する必要がある。

教師の資質の向上と組織的な学校経営

担 当 課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

・組織的な学校運営及び学校づくりへの積極的参画に必要な資質の向上を図るとともに、教育の今日的課題に対応できる情報収集力と企画力を有する人材を育成する目的で、教務主任及び校長の推薦する者を対象として、市教職員ミドルリーダー研修会を実施し、トップリーダーを目指す人材育成に取り組むことができた。

* 平成 27 年度は 2 回開催 各小中学校から 17 人参加

・平成 26 年度から、かほく市教育振興基本計画の具現化を目指すとともに、校長の戦略的な学校経営を支援し、特色ある学校づくりを大いに支援することを目的に、前年度の学校評価の最終まとめ（3 月）を次年度の学校経営に反映させるための「学校経営戦略プラン事業」を実施し、特色のある学校づくりを推進した。

< 課題 >

- ・校内 OJT を通して主任層や若手を計画的に育成する継続実践が望まれる。校内 OJT 委員会が、各学校組織に位置づけられているものの、その機能化に向けては検討を重ねる必要がある。
- ・今日的課題研修等に積極的に参加し、研修会で得られた情報を還流し、授業力や指導力を継続的に高めていこうとする学校の組織体制を強化しなければならない。
- ・様々な教育機関と連携し、教職員の指導力や人間力を高める実践を通して、人材育成に努めなければならない。

教育センターの研修事業

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

・教職員の資質向上を図るために策定した「かほく市教職員研修基本計画」に従って、計画的に研修会が実施できた。

* 基本研修（教職員全体研修会、初任者教職員研修会ほか 1 研修会） 3 回

かほく市の教育の現状と課題を理解することを目的とした教職員全体研修のほか、若手教職員学級経営力、道徳授業力の向上を図る初任者等研修会を開催した。

* 指定研修（教務主任研修会ほか 9 研修会） 23 回

前期学校訪問を終えての課題に対応するための教務主任研修のほか、道徳教育推進教師、市費負担の教職員、特別支援教育支援員、心の教室相談員、学校司書、学務員、A L T の資質向上を図るために研修会を開催した。それぞれの業務の質を高めることができ、学校教育の向上に寄与することができた。

* 重点研修（学力向上教科別研修会ほか 3 研修会） 9 回

学力の向上を図るために、「学力向上教科別研修会」等を実施した。金沢教育事務所の指導主事を招聘して、教科ごとにきめ細かな指導助言を受けた。2 学期からの指導法改善に効果的であった。

* 教育講演会 2 回

* 演題「学力向上・いじめ予防のための土壌づくり」

講師 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 氏

* 演題「ほめ言葉のシャワーの奇跡」

講師 菊池 省三 氏

< 課題 >

・研修内容が研修者だけのものとなり、他の教職員への還流があまり見受けられないという状況があるため、学校全体で、研修した内容について共通理解を図る場、還流の場を意識的に確保しなければならない。

・校内研究や校内 O J T を通して、教職員としての力量を高めようとする真摯な姿勢を伸張したい。

基本的方向 1 - (2) 豊かな人間性の育成

達成状況

B

道徳教育の充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・道徳教育推進教師を対象とした研修会を開催し、「タイムリーなことばかり教材にするのではなく、将来を見据えた年間指導計画に基づく取組」や「考える道徳、議論する道徳」の必要性について共通理解を図り、各校での道徳教育を推進した。
- ・共通道徳担当教師を対象とし、小学校では「西田先生の生涯を中心に学び、その人となりから学習する」、中学校では「西田先生の生涯からその哲学までを学び、自己を振り返る学習をする」という共通道徳のねらいについての研修会を開催し、郷土の先人の努力を知り、努力しようとする心構えを育むことができた。また、西田幾多郎記念哲学館と連携した共通道徳の実践に努め、小学館学習まんが「西田幾多郎」や「いしかわ版道徳教材」を効果的に活用することができた。
- ・道徳の授業を保護者や地域の方々に公開するため、「道徳授業年間公開計画」を作成し、計画的な授業公開に努めることができた。

< 課題 >

- ・道徳での実践内容を家庭へ知らせるため「道徳だより」を発行し、啓発活動に重点を置く必要がある。
- ・保護者や地域の人々をゲストティーチャーとして招き、家庭や地域社会との共通理解を深め、道徳の教科化に向け、相互の連携を図る必要がある。
- ・小中学校が連携して9年間で豊かな心を育成するため、道徳揭示の工夫など、多くの共通実践が望まれる。
- ・いしかわ道徳教育推進校の研究発表会に多くを参加させ、授業展開の工夫や効果的な揭示など先進的な取組が広がるようにする必要がある。

特別支援教育の充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・特別に配慮の必要な児童生徒にきめ細かに対応するために、学校の必要に応じて特別支援教育支援員を10人配置し、学習活動の円滑な運営を支援した。
 - *高松小学校 2人 *七塚小学校 1人 *外日角小学校 2人
 - *宇ノ気小学校 3人 *金津小学校 1人 *宇ノ気中学校 1人
- ・小学校の通常学級に在籍している児童の中で、言語発達遅滞を中心として何らかの個別支援を必要としている児童のために、通級指導教室「ことばの教室」(2学級)を宇ノ気小学校に設置して専門的な支援をした。
- ・「就学指導委員会」を総合的に特別支援教育全般のあり方を協議する「特別支援教育推進委員会」に改めた。
- ・平成27年度には「かほく市創生総合戦略推進計画」に特別支援教育の充実を掲げ、平成28年度からの特別支援教育の充実に向けて取り組んだ。
- ・個別支援が適切に行えるように、特別支援教育コーディネーターを中心とし、かほく市共通の個別支援シートの活用を浸透させた。

< 課題 >

- ・福祉と教育が一体となり、相談・支援の窓口の一本化をはじめ、乳幼児期から継続的に支援する仕組みの構築が急がれる。(子ども総合センター・子ども発達相談支援センター・教育センター)
- ・これまで以上に、特別支援教育支援員と教職員がコミュニケーション深めることにより、機動的で効果的な支援ができる体制づくりに努める必要がある。
- ・特別支援教育の充実を図るため、これまで以上に専門相談員(いしかわ特別支援学校)の要請事業を積極的に活用する必要がある。
- ・楽しくてわかる授業づくりに努め、存在感や自己肯定感を育てながら、不登校を未然に防ぐようにする必要がある。

いじめ、不登校や問題行動の防止

担 当 課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・平成 27 年度から教育委員会として小中学校全児童生徒の心の変化を観察するため、Q U 調査を年 2 回実施し、その結果を活用し、「学力の向上」、「いじめや不登校の改善」、「学校生活の意欲が低下している子どもの発見」などに取り組み、問題行動への初期段階での対応に役立っている。
- ・いじめアンケート実施後、各校設置の「いじめ問題対策チーム」が中心となり迅速な対応に努めるとともに、いじめの未然防止についても各校において積極的な取組により、意識が高まってきた。
- ・各校のいじめ防止に対する取組が、保護者に伝わっているかどうかを「かほく市共通アンケート」で調査し、数値の低い学校に対して、引き続き指導を行い改善に努めた。

【保護者アンケート】

- 「学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってきますか。」
- ・数値目標としている「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」について、全国調査（4月）後、7月と12月に追跡調査を行い、各校のいじめ防止に対する指導に効果的に活用することができた。
- ・いじめ防止対策推進法の規定に基づき、「かほく市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図るとともに、今日的課題について共通理解が図られた。

かほく市における不登校児童生徒の推移

(人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 24 年度	26	27	31	31	-	32	36	34	36	38	38	38
平成 25 年度	31	31	33	33	-	36	35	36	36	35	37	38
平成 26 年度	28	33	38	40	-	43	46	47	48	48	50	50
平成 27 年度	25	27	31	32	-	38	43	45	46	47	46	45

< 課題 >

- ・各校のいじめ防止基本方針が実効性あるものとなっているのか、常に検証を重ねる必要がある。
- ・いじめ問題対策チームが機動的なものとなるような対応の在り方について、引き続き関係機関との連携を図っていくことが必要である。
- ・学校だよりや生徒指導だより、ホームページ等を通じた「いじめ防止に対する取組」の積極的な啓発活動に努める必要がある。（かほく市共通アンケートで実態調査を継続）
- ・いじめ対応アドバイザーやスクールカウンセラーがチーム学校の一員として組織的に動ける体制づくりが必要である。
- ・「かほく市いじめ問題対策連絡協議会」を通じて、法務局をはじめとする関係機関や各種団体と連携を密にし、今後も、引き続きいじめのない子ども社会の実現に取り組む必要がある。

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で 「いじめはどんな理由があっ てもいけないことだと思う」と 回答した児童生徒の割合	小学校	91.7%	96.6%	97.1%	100%
	中学校	94.5%	96.4%	97.3%	100%

キャリア教育の推進

担当課 学校教育課

<取組内容・成果>

- ・学校経営戦略プラン事業や総合的な学習の時間を中心とした実践の中で、様々な職業人から勤労の意味や生き方について話を聞き、今の学びが将来に生きることを深く考えることができた。
- ・すべての中学校で、夏季休業中に「職場体験活動」を行い、勤労観、職業観の育成に努めることができた。〔平成 27 年度は、3 中学校が市内事業所 126 箇所で開催〕
- ・地域を知る活動や、家族・身近な人の仕事調べ、社会見学や工場見学を通じて働く人々の姿に触れる体験的活動に積極的に取り組むことができた。

<課題>

- ・将来の夢や目標を持つことは学びの基盤であることを継続的に指導するとともに、今の学びが将来に生きることを家庭と連携を図りながら取り組んでいく必要がある。
- ・小中学校で学年に応じたキャリア教育を行っているが、学びの継続という点で教員の意識が薄い。キャリア教育のねらいや目標を理解し、小中連携の取組に位置づける必要がある。
- ・地元企業と連携し、様々な体験活動や企業見学を通じたキャリア教育の企画開発が必要である。
(コンピュータ分野・スポーツ分野)

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小学校	90.5%	82.8%	82.0%	95%
	中学校	70.2%	71.8%	75.2%	80%

コミュニケーション能力の育成

担当課 学校教育課

<取組内容・成果>

- ・あいさつを基本としたコミュニケーションの大切さについては、前年度に引き続き、全校において創意工夫を凝らした取組が展開された。
- ・コミュニケーション能力の育成については、「いしかわ学びの指針 12 か条」に基づき、実践活動が継続的に行われている。

<課題>

- ・市 P T A 連合会と連携を図り、家庭を巻き込んだコミュニケーション能力の育成が必要である。
- ・あらゆる教育活動を通して言語活動の充実を図り、相手を意識した話し合い、学び合い学習の展開につなげる必要がある。

幼稚園、保育園と小学校、中学校の連携

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・幼稚園、保育園と小学校の連携においては、前年同様、各校区単位で「幼保小連携事業連絡会」が主体となって、交流会や体験入学等の事業を実施し、相互の交流・連携を通して、園児・児童の健全育成を図った。
- ・小中学校の連携については、中学校区単位で公開授業や分科会を実施し、児童生徒や指導者の交流・情報交換を通して、小中連携の重要性を共有できた。

< 課題 >

- ・小中連携のための共通認識や共通実践において、さらなる取組強化が必要である。
- ・かほく市創生総合戦略推進計画に基づき、発達障害児や気になる児童等に対し、幼年期からのきめ細かな指導を行うためのシステム作りが必要である。

基本的方向 1 - (3) 児童生徒の体力増進と運動能力の向上

達成状況

B

学校における運動機会の充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・「スポチャレいしかわ」に全小学校が登録し、積極的実践を積み重ねて好成績を収めた。

【スポチャレ・40m「ベスト部門」】

- * 4年の部 6位 宇ノ気小学校 4年3組

【スポチャレ・8の字「ベスト部門」】

- * 4年の部 3位 宇ノ気小学校 4年3組

【スポチャレ・シャトルボール「チャレンジ部門」】

- * 6年の部 2位 高松小学校 6年3組

【スポチャレ・長なわ「ベスト部門」】

- * 1年の部 2位 外日角小学校 1年1組

- * 5年の部 6位 外日角小学校 5年1組

【スポチャレ・長なわ「チャレンジ部門」】

- * 1年の部 6位 外日角小学校 1年1組

- ・第10回いしかわっ子駅伝交流大会に全小学校が出場し、男子96チーム、女子95チームが出場し、男子では宇ノ気小学校が優勝した。

【駅伝男子の部】

- * 優勝 宇ノ気小学校 26分33秒

- * 第6位 高松小学校 27分17秒

- * 第19位 七塚小学校 28分11秒

- * 第26位 外日角小学校 28分21秒

- * 第47位 金津小学校 29分13秒

- * 第82位 大海小学校 31分11秒

【駅伝女子の部】

- * 第4位 高松小学校 29分04秒

- * 第19位 宇ノ気小学校 29分27秒

- * 第30位 金津小学校 31分09秒

- * 第62位 七塚小学校 32分52秒

- * 第70位 大海小学校 33分06秒

- ・中学校部活動の冬季トレーニングに外部指導者を招き、効果的なトレーニング方法を学ぶことができた。

- ・平成26年度から実施した市内小学校6年生を対象とした小学生体育大会（陸上6種目）を引き続き開催し、学校間の友好や競い合うことの楽しさ、それぞれの学校における団結を体験させることができた。

< 課題 >

- ・体育、保健体育の授業を通して、体力の向上を図る授業展開の工夫が望まれる。

- ・教科体育の準備運動等に「スポチャレ」を取り入れ、取組強化週間を設けるなどの工夫が必要である。

- ・市内のスポーツクラブとの連携を図るなど、外部指導者を大いに活用し、運動機会の充実及び運動の質の向上を推進していく必要がある。

健康づくり、体力向上をめざす教育の充実

担 当 課

学校教育課・生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・朝食の摂取については、すべての学校において良好な結果である。
- ・養護教諭や栄養教諭と連携を図りながら保健・食育指導を行うことができた。
- ・市内における児童生徒の体力・運動能力調査（小学校4年～6年・中学校1年～3年）結果は、各校、各学年でばらつきがある。特に小学校6年の調査結果については、次の表の通り石川県の平均を下回る項目が多かった。中学校3年の調査結果についても、平成26年度は全項目において、石川県の平均を上回っていたが、平成27年度は、男子で2項目において下回った。

平成27年度体力・運動能力調査結果

【小学6年男子】

	市平均	県平均	比 較	市平均	県平均	比 較
握力 (kg)	20.08	20.20	0.12	21.14	19.77	1.37
上体起こし (回)	20.52	22.48	1.96	19.54	20.17	0.63
長座体前屈 (cm)	32.31	34.09	1.78	40.37	41.21	0.84
反復横とび (点)	49.62	47.88	1.74	46.15	44.88	1.27
シャトルラン (回)	63.40	66.02	2.62	51.72	51.91	0.19
50m走 (秒)	8.81	8.85	0.04	9.07	9.17	0.10
立ち幅とび (cm)	161.09	165.54	4.45	156.31	157.16	0.85
ボール投げ (m)	25.84	27.52	1.68	16.44	16.80	0.36

【小学6年女子】

	市平均	県平均	比 較	市平均	県平均	比 較
握力 (kg)	35.86	34.74	1.12	26.78	25.23	1.55
上体起こし (回)	33.40	30.46	2.94	28.36	24.32	4.04
長座体前屈 (cm)	48.87	49.19	0.32	49.83	48.47	1.36
反復横とび (点)	56.67	55.65	1.02	48.21	47.34	0.87
持久走 (秒)	359.42	378.18	18.94	293.28	296.67	0.52
シャトルラン (回)	106.11	95.69	10.42	64.50	58.70	5.80
50m走 (秒)	7.64	7.52	0.12	8.63	8.72	0.09
立ち幅とび (cm)	215.61	215.16	0.45	178.67	173.83	4.84
ボール投げ (m)	27.18	24.77	2.41	15.65	14.04	1.61

【中学3年男子】

【中学3年女子】

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
体力テストの5段階評価で、 上位2ランク(総合評価A、 B)の割合	小学校	55.4%	58.2%	55.7%	60%
	中学校	69.3%	61.7%	60.5%	70%

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動を展開した。
 - * 「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマとした「げんきあっぷカード」を市内小学校に配付した。
 - * 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発のぼり旗を夏休み期間中の市内ラジオ体操会場に設置した。
 これらにより、小学生とその家族に対し、生活リズムの大切さを意識させるとともに、家庭での生活リズムの向上を促した。
- ・かほく市内の3地区（高松、七塚、宇ノ気）において、スポーツ推進委員の指導のもと、ラジオ体操指導者講習会を開催した。各小学校の協力により、多数の5・6年生児童と教員が参加した。

- ラジオ体操指導者講習会開催日時、場所 -

- * 平成 27 年 7 月 2 日 (木) 宇ノ気小学校体育館 19:30~20:30
180 人 (子ども 130 人、一般 50 人)
- * 平成 27 年 7 月 7 日 (火) 河北台健民体育館 19:30~20:30
120 人 (子ども 80 人、一般 40 人)
- * 平成 27 年 7 月 9 日 (木) 高松小学校体育館 19:30~20:30
100 人 (子ども 60 人、一般 40 人)

すべて概数

ラジオ体操への参加を促すことによって、児童の夏休み期間中の早起きと健康的生活を維持し、生活リズムの向上につながったと思われる。

< 課題 >

- ・体力・運動能力の結果については、学校間較差が見受けられることから、この較差を解消する手立てを講ずる必要がある。
- ・前年度の体力・運動能力の結果を基に各校での現状・課題を把握し、「体力アップ 1 校 1 プラン」において、項目を絞った取組をしている学校は成果が上がっている。今後も各校においても重点的な項目を設けて、体力向上を目指し、継続的・計画的に取り組む必要がある。
- ・養護教諭や栄養教諭と連携を図りながら保健・食育指導を行っているが、さらに充実したカリキュラムを展開し拡充を図る必要がある。

安全でおいしい給食の提供

担 当 課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・栄養バランスを大切にし、季節や旬、イベント等を捉えた興味深い献立を年間通じて企画し提供した。また、旬の地場産物や地元産品を素材にした献立も年間通じて行った。
- ・継続した食育の一環として、稲作体験、かぼっくりの定植や収穫、紋平柿の収穫や脱渋などの農業体験を行い、生産者から生育に関する説明を受けるなどの交流会も実施した。また、米飯給食については、差額補填によって瀬戸町及び鉢伏産コシヒカリの一等米を提供した。
- ・食物アレルギーを持つ児童生徒に十分な配慮を行うため、第 1・第 2 学校給食センターは、保護者や主治医、学校医とも連携を図り安全で安心できる学校給食を提供した。
 - アレルギー対応 -
 - * 小学生 33 人 * 中学生 4 人
- ・昨年に引き続き、学校司書とのコラボレーションで絵本に出てくる料理を学校給食として提供し、学校給食に対する関心をさらに高めることができた。また、給食時には読み聞かせも行った。
- ・平成 25 年度から学校給食センターの長寿命化計画に基づき施設の改修を実施し、平成 27 年度は空調設備並びに機器の更新を行った。
- ・「学校給食における食物アレルギー等への対応について」の共通理解ができる手引書 (アレルギー対応マニュアル) を一部修正し、アレルギー疾患の児童・生徒に対して、具体的な対応ができるよう取り組んだ。

< 課題 >

- ・家庭との連携を密にして、食育の大切さをさらに啓発する必要がある。
- ・学校給食における異物混入については、管理体制を強化し細心の注意を払う必要がある。

基本的方向 2 - (1) 家庭教育活動の充実

達成状況

B

家庭教育に関する学習機会の拡充

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動を展開し、生活リズムの大切さを啓発した。【再掲】
 - * 「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマとした「げんきあっぷカード」を市内小学校の児童に配付した。小学生とその家族に対し生活リズムの大切さについて意識させ、家庭における生活リズムの向上を図る機会とした。
 - * 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発のぼり旗を夏休み期間中の市内ラジオ体操会場に設置した。
 - ・ P T A 等と連携し、講座等の事業を展開した。
 - * 市 P T A 連合会家庭教育委員会との連携事業として「健康教室」を開催した。・・・27人参加
 - * かほく市民大学校「家庭教育講座（2回コース）」を実施した。
 - 子どもが求める関わりとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12人参加
 - ふれあい昆虫館の子育て教室「脳を育てる 早寝・早起き・朝ごはん」・・・10人参加
- 講座等を通じて、保護者や教職員に対して、現代の子どもたちに係る問題について考える学びの機会を提供した。

< 課題 >

- ・引き続き P T A との連携を図りながら、講演会やかほく市民大学校「家庭教育コース」を実施していく必要がある。
- ・家庭教育や子育てに係る指針の類を定め、市 P T A 連合会や学校 P T A などを通して保護者や市民に広く周知・啓発し、家庭教育の充実に関する取組を働きかける。
- ・学習機会等を有効に活かすため、家庭に対する効果的な働きかけの工夫が必要である。

体験活動によるコミュニケーションの促進

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・親子や小学生を対象とした教室・講座を開催した。
 - ・親子のコミュニケーションを促し、絆を強めるためのふれあいや対話の機会とした。また子ども自身の学びと交流の機会とした。
 - * 夏休み親子教室を開催
 - 親子トンボ玉づくり教室、親子デコパージュ教室、親子キャンドルづくり教室、親子囲碁教室、親子天体望遠鏡づくり教室、親子クッキング教室
 - * かほく市子ども文化教室（年間活動）を開催
 - かほく市子ども煎茶教室、かほく市子どもお箏教室、かほく市子どもパステルアート教室
 - * かほく市星の会との連携
 - 七塚生涯学習センター天体観測室にて天体観望会（年間活動）を実施した。
 - また、8月には、市内外から誰でも参加できる「かほく市星空のつどい」を開催し、太陽観測や音楽イベント、天体観望会を実施した。
- （参考）各教室の開催回数、参加者実績など
- | | | | |
|--------------|-------------|-------------|--------|
| トンボ玉づくり教室 | 12組 | デコパージュ教室 | 13組 |
| キャンドルづくり教室 | 13組 | 囲碁教室 | 3組 |
| 天体望遠鏡づくり教室 | 16組 | クッキング教室（2回） | 平均9組 |
| 子どもパステルアート教室 | 11回 15人 | 子どもお箏教室 | 33回 6人 |
| 子ども煎茶教室 | 12回 9人 | かほく市星空のつどい | 65人 |
| 天体観望会 | 15回 平均15人/回 | | |

< 課題 >

- ・各学校の P T A に対して、親子がふれあう機会の増加を働きかける必要がある。
- ・人気のある体験活動を取り入れ、市民大学校「親子体験コース」の充実を図っていく必要がある。

基本的方向 2 - (2) 人材の育成と地域活動の活性化

達成状況

B

地域づくり人材の育成	
担 当 課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年度より 3 年間取り組んだ「地域づくり人材育成講座」については、地域づくりに関心の高い市民の参加は得られたとの判断により、平成 27 年度は休止とした。 平成 26 年度に実施した「市民大学校地域づくりコース『ワイワイ塾』」の受講者による新たな活動のスタートに対して、地域活動補助金の交付や会場使用等に関する事務支援を行った。 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域づくり人材育成講座」の受講者が、「コミュニティ・スクール」の取組に関わってもらえるよう働きかける必要がある。 	

地域活動の支援体制の充実	
担 当 課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動補助金の交付 市民と行政のパートナーシップによる魅力ある生き生きとしたまちづくり活動の推進を目的として、かほく市のまちづくりに貢献する自主的かつ主体的な事業を実施する市民団体等に対して「かほく市地域活動補助金」を交付した。 交付実績：2 団体 事業名：くもくも仙人プロジェクト 事業名：木津・恵比寿町周辺に心の温泉を作ろう!! 公民館長連絡会の開催 高松公民館および七塚地区・宇ノ気地区の公民館を中心とする社会教育活動支援のため、年 3 回の館長連絡会を開催し、市民交流大会などの円滑な運営を図った。 社会教育活動連絡員の選任 高松中学校区全域を対象区域とする高松公民館と区や町会を結ぶ窓口がなかったことから、平成 26 年度において高松地区町会長・区長の協力を得て「社会教育活動連絡員」を選任し、全市域での事業実施の体制を整えた。平成 27 年度も「社会教育活動連絡員」を選任し、市民交流大会の開催にあたった。 第 2 回市民交流大会（ペタンク大会）の開催 多世代交流を含むかほく市民の交流と、地区公民館や町会・区としての地域間交流を図るとともに、かほく市民としての連帯感を醸成する大会として実施した。 参加チーム： 45 チーム（計 258 人） <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育に関する職員の知識や能力など資質の向上を図ることが必要である。 地域活動補助金の交付実績は 2 件であった。引き続き広く制度の周知を図り、各種団体などに補助金の活用を呼びかけていく必要がある。 高松地区「社会教育活動連絡員」の体制を活かした高松公民館事業の展開について検討を進める必要がある。 	

情報の共有化とネットワークづくり

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・不審者情報や熊などの危険動物の目撃情報についてはいち早く「いいメールかほく（学校メール）」で発信し、子どもたちの安全を守る体制を整えている。
- ・「いいメールかほく」などで情報の共有化を図り、地域をあげて子どもたちを見守る体制を推進した。
- ・平成 28 年度からのコミュニティ・スクールのスタートにより、各種団体がその垣根を越えて連携協働する下地が整うこととなった。

< 課題 >

- ・各種の社会教育団体や地域活動団体のネットワークや情報共有は、未だ不十分である。

学校支援ボランティア事業の推進

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・地域ぐるみで学校（教育）を支援するとともに、地域の教育力の向上を図るための取組として展開した。
- ・学校支援ボランティア人材の登録・整理を行うとともに、学校からの支援要望に応じて、登録人材による支援活動を実施した。
- ・地域ぐるみの学校支援推進事業の取組については、広報紙（年 3 回発行）生涯学習通信・学校支援ボランティアだよりやホームページ掲載等の啓発活動により市民に認知されてきた。
- ・学校の登下校時の見守り者が多く配置されており、子どもたちのあいさつ運動・交通安全のマナーの取組もしっかり展開された。

< 課題 >

- ・学校支援ボランティア人材の新規登録をさらに進め、登録人数の増加と支援分野の拡大を図る必要がある。
- ・登録人材の有効活用を促進するため、その情報を適宜学校に提供する必要がある。
- ・今後も学校支援ボランティア事業について広く市民に周知する必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
学校支援ボランティア登録人数	136	168	136	300

コミュニティ・スクール等の設置

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・コミュニティ・スクールのスタートに向けて、先進校の視察、学校等との協議調整、条例等の整備、人材選定、制度説明などを行った。

【先進校視察】...文部科学省が推薦する4校を視察

- ・ 5月14日(木) 滋賀県湖南市 岩根小学校
 - * 「湖南工業団地」の造成により外国人を含む新しい住民が増加し、教育現場の荒廃という危機感が地域を動かしてきた。学校運営協議会メンバーに充て職的な委員は選任しない、という方針で進めてきたが、近年なかなか引き受け手が見つからないという悩みを抱えている。
- ・ 5月14日(木) 三重県いなべ市 石樽(いしぐれ)小学校
 - * 学校建設計画段階で住民の意見を聞きながら設計をしようという市の方針で50数回というワークショップを開催。それを機に学校への関心が高まった。反面、石樽地区は自治会加入率が下がってきており、コミュニティ・スクールの活動参加が地域に馴染むきっかけとなっている。
- ・ 6月15日(月) 神奈川県横浜市 東山田中学校
 - * 「やまたろう」とネーミングされた学校を中心とするコミュニティが構築され、まちづくりにつながった。校舎内にある「コミュニティハウス」は生涯学習の場としても設定されており、市民と中学生の交流の場が日常的に見られる。「キャリア教育」に重点的に取り組んでいる。
- ・ 6月16日(火) 東京都三鷹市 東三鷹学園第一小学校
 - * 東三鷹学園は三鷹市の15小学校7中学校を7つの学園に分けたうちのひとつであり、中学校1校、小学校3校で構成されている。各校の「学校運営協議会」が連携して「コミュニティ・スクール委員会」を組織し、小中一貫教育校として学園運営を推進している。
- ・ それぞれ特徴のある4校の学校運営協議会の内容やコーディネーターの活動を直接聞くことにより、かほく市がめざす「地域向けベクトル」を重視したコミュニティ・スクールの姿が見えてきた。

【協議・調整】

- ・ 7月 かほく市コミュニティ・スクール素案作成
- ・ 8月 校長研修会において骨子を説明
- ・ 10月 主要事業ヒアリングにおいて市長に骨子を説明
- ・ 11月 校長への聞き取り調査実施
- ・ 12月 教育委員会会議において条例制定

【人材選定・啓発活動】

- ・ 1月 学校支援委員会説明(9校)、学校コーディネーター選定
- ・ 2月 学校運営協議会委員の選定、地域活動団体への説明
- ・ 3月 啓発パンフレットの作成、事務運営マニュアルの作成

- かほく市コミュニティ・スクールの概要(平成28年4月1日スタート) -

- ・ 各学校に学校運営協議会を設置・・・委員8人
- ・ 全9小中学校に学校コーディネーターを配置・・・9人
- ・ 宇ノ気、七塚、高松各地域に地域コーディネーターを配置・・・3人

< 課題 >

- ・ コミュニティ・スクールの運営には、学校と地域社会の連携・協働が重要であるが、制度そのものの住民周知が不十分である。より多くの地域住民がコミュニティ・スクールに関わってもらえるようPRに務める必要がある。
- ・ コミュニティ・スクールを機能的、効果的に運営するため、企画、運営の柱となる学校コーディネーター、地域コーディネーターのスキルアップに努めなければならない。

基本的方向 2 - (3) 学校から家庭、地域への働きかけ

達成状況

B

学校の教育活動の発信

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・「いいメールかほく」への登録を各校で呼びかけていることにより登録率の増加傾向は続いている。当初は、災害等危機管理面の情報発信が大半であったが、現在は、学校行事の案内や各種大会の結果等を知らせるなど、各校が工夫して活用している。
- ・県教育センターを拠点として、県内公立学校を結ぶネットワーク（スクールネット）が構築されており、市内9校全てが、県教育センターが提供する統一されたデザインのホームページ作成ソフトを利用しホームページを開設している。そのことにより、誰でも簡単にホームページを更新することができ、見やすいホームページになった。
- ・かほく市共通アンケート（保護者対象）において、「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子どもたちの様子などがわかりやすく伝わってきますか？」の問いに、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」の両方を含めた回答は小学校では 93.3%、中学校では 89.2%となっており、概ね学校からの紙媒体での情報発信は伝わっていると判断できる。

かほく市共通アンケート（保護者対象）H27.12 調査

「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子どもたちの様子などがわかりやすく伝わってきますか？」

	高松小	大海小	七塚小	外日角小	宇ノ気小	金津小	高松中	河北台中	宇ノ気中
「当てはまる」	32.5%	53.8%	44.4%	42.6%	25.6%	51.7%	22.5%	23.0%	31.0%
「どちらかといえば当てはまる」	58.9%	37.6%	53.1%	53.6%	64.8%	47.2%	63.8%	64.3%	62.0%

< 課題 >

- ・ホームページの更新が遅い学校については、引き続き、こまめな更新・定期的な更新を指導していく。
- ・紙媒体での情報発信はなされているものの、ホームページを効果的に活用するなど、まだまだ改善すべき点が多い。

学校開放、学校行事への参加促進

担 当 課

学校教育課・生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・いしかわ教育ウィーク（11/1～11/7）の間、各学校で様々な取組を企画し、地域に対し学校公開を行った。その結果、地域の方に様子を知ってもらうよい機会となった。
また、運動会や文化祭にも多くの地域の方々の参加をえることができた。
- ・かほく市立学校施設利用条例の規定に基づき、すべての学校で学校施設開放を行った。
体育協会加盟団体、スポーツ少年団加盟団体、総合型地域スポーツクラブ加盟団体など、主に社会体育団体の定期的利用に供した。
- ・学校施設の開放に際しては、学校と綿密な調整を図った。

< 課題 >

- ・学校施設開放については、利用者マナーの向上、学校との十分な調整など事務の徹底が必要である。
- ・学校行事への参加は、単なる公開には止まらず、地域住民や学校が主体的に学校教育に対し、関わっていきける協力体制をさらに推進する必要がある。

（参考）利用できる学校施設

高松中学校（校舎、屋外運動場、屋内運動場） 河北台中学校（校舎、屋外運動場、講堂）

宇ノ気中学校（校舎、屋外運動場）

高松・大海・七塚・外日角・宇ノ気・金津小学校（屋外運動場、屋内運動場）

利用条件：市内在住者、在勤者及び在学者 10 人以上で構成され、かつ、責任者としての成人を含む団体が、学校教育上支障がないと認められる限り、社会教育その他公共のために利用する場合。

学校と連携した家庭教育の啓発

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・あいさつ励行と交通ルール指導のため、9月24日から30日までの土日を除く5日間を「グッドマナーキャンペーン」期間として定め、市職員、河北郡市教育振興会、かほく市民生児童委員協議会、かほく市社会教育委員、高松ライオンズクラブ会員など、延べ270名が計17ヶ所であいさつ運動と交通安全運動を行った。
また、市内各小中学校でも、期間・場所を定め、教職員、児童生徒、保護者等がグッドマナーキャンペーンに取り組んだ。
- ・生活リズムが崩れやすい夏休み期間中に、小学生の「早寝・早起き・朝ごはん」を推進するため、「げんきあっぷカード」を作成し、市内小学校の児童へ配付した。
（チェック項目：起床時間、就寝時間、朝ごはんの有無、家庭での手伝いの有無）

< 課題 >

- ・交通安全、あいさつ運動については、学校と連絡を取り合い、相互の取組が重複しないよう調整して効率の良い取組を継続する必要がある。
- ・市PTAが推奨している「コミュニケーションウィーク事業」に家庭教育に係る指針の活用を働きかける必要がある。
- ・「げんきあっぷカード」については、今後も希望する学校に配付し、生活リズムの向上に活用してもらうことが必要である。

教育相談体制の充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・臨床心理士等によるいじめや不登校などの教育相談を実施した。年々来所による相談が増加し、相談内容についても多様化している状況である。
 - *平成 27 年度 来所相談 50 件、訪問相談 9 件、電話相談 17 件
 - *平成 26 年度 来所相談 46 件、訪問相談 7 件、電話相談 23 件
 - *平成 25 年度 来所相談 31 件、訪問相談 8 件、電話相談 57 件
 - *平成 24 年度 来所相談 27 件、訪問相談 7 件、電話相談 37 件
- ・生徒等の悩み事を受けるために、心の教室相談員 3 人を週 3 回、市内の中学校に配置し、相談者に適切な助言を行った。
- ・スクールカウンセラー 3 人を配置し、市内の 3 小学校と 3 中学校の児童及び生徒の面接相談や行動観察、登校支援を行い、成果が上がっている。

< 課題 >

- ・どの学校にも専門的知識が求められる相談が多くなっており、引き続き、心の教室相談員、県立看護大学の臨床心理士等の活用、スクールカウンセラーの配置拡充を図っていきたい。

問題を抱える子ども等の自立支援

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・幼稚園や保育園、小学校、中学校を巡回し、就学前の園児から児童生徒に至るまできめ細かな対応指導を行った。また一方で「成長応援ノート」を活用することによって、情報を共有し学校と家族間の意思の疎通においても支援した。

- 成長応援ノート利用者 - 子ども発達相談支援センターより (H28.3.31 現在)

	累計	新規 (平成 27 年度)
* 入園前	1 人	(1 人)
* 幼稚園児・保育園児	26 人	(11 人)
* 小学生	68 人	(5 人)
* 中学生	30 人	(0 人)
* 高校生以上	13 人	(0 人)

- ・教育支援センター「すまいる」には、年間を通じて最高 9 名の通室生が生活リズムの再構築と学習支援を受けた。
- ・石川県立看護大学との包括的連携事業として、市内中学校及び教育支援センター「すまいる」において、看護大学の学生ボランティアが、メンタルフレンドとして児童及び生徒たちの心の支えとして学習支援を行った。
 - *平成 27 年度支援回数 : 延べ 109 回
 - *平成 26 年度支援回数 : 延べ 66 回

< 課題 >

- ・子ども総合センター (子育て支援課) 子ども発達相談支援センター (健康福祉課) 教育センター (学校教育課) の機能が最大限に発揮される仕組み作りが急務である。

高等教育機関との連携

担当課 生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・市民大学校において、看護大学より講師を招いて1回、「金沢大学市・町共催公開講座事業」を活用して3回講座を開講した。

< 課題 >

- ・市民大学校の講座設定に際しては、より受講者の興味・関心を引くような内容を検討する必要がある。
- ・看護大学や金沢大学の講師陣を活かし、同様の分野で内容を変えた複数回の講座を行うことにより、受講者の知識を深め、学習意欲を高く維持することを進める必要がある。

月 日	演 題	講 師
5月15日(金)	脳と心臓と腎臓	石川県立看護大学教授 多久和典子
7月17日(金)	よりよい睡眠で健康ライフ	金沢大学教授 櫻井 武
9月 3日(木)	コミュニケーション心理学	金沢大学 濱田 里羽
3月 9日(水)	生涯学習として学ぶことについての講演	金沢大学社会教育研究振興会 事務局長 浅野 秀重

少年愛護センターとの連携

担当課 生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・巡回補導活動

- * 少年愛護指導員(1人)による指導巡回 (月～金 15:00～17:00)
- * 少年愛護員(60人)による定例指導巡回 (年間16回×3地区 19:30～21:00)
- * 「サマーフェスタ in かほく」における特別指導巡回
(8月1日(土) キャッツフェスタ会場 18:30～22:30)

少年愛護員に学校教諭やPTA役員を組み入れることにより、学校と少年愛護センターの連携強化を図った。

・青少年健全育成に関する啓発活動

- * 標語の募集と看板設置 (市内5箇所) * 啓発チラシ発行 (全戸配布)
- * 広報紙「ふれ愛」発行 (全戸配布)
- * 各家庭に対して青少年健全育成の意識の啓発に取り組んだ。

< 課題 >

- ・引き続き学校、家庭との連携のもと、青少年と保護者への情報端末の利用に関する注意喚起や日常生活のマナー向上を働きかけていく必要がある。

(参考)

- ・津幡警察署管内で市内在住の青少年が行った非行件数(補導件数・検挙件数)

H27: 刑法犯7件 不良行為80件 合計87件 (H26 123件)

基本的方向3 - (1) とともに学び合う機会の拡充

達成状況

C

学習情報の発信

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・生涯学習に関する情報を市の広報、チラシ、HP、いいメール、CATV、新聞などを利用して発信した。
- ・西田幾多郎記念哲学館での展示会1件、渚と海の博物館「市民ギャラリーうみっこ」での展示会35件のほか、七塚生涯学習センターや高松産業文化センターにて市民が生涯学習の成果を発表した。発表を通して、各種団体の情報が発信された。

< 課題 >

- ・市民大学の受講者アンケートの結果などを参考として、幅広い世代への情報発信方法やより効果的な情報媒体の検討を行う必要がある。

学習成果を生かした社会参加の促進

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・多くの市民の方々に図書館を気軽に利用してもらうため、子どもたちを対象とした体験講座や、一般の方を対象にした図書館の活用方法を紹介する講座を開催した。
- ・図書館において、図書館ボランティアの方々のスキルアップや新規ボランティアの開拓のための講座を開催した。
- ・市女性協議会では、学習活動での成果を踏まえて、石川県女性県政会議において県知事に提言した。
期 日 : 11月28日(土)
会 場 : 津幡町文化会館「シグナス」
テーマ : 地域に密着した女性外来について

< 課題 >

- ・個人の学びの成果が地域社会に十分に活かされていない。学びによる知識や体験、技能を地域の活性化に活かす工夫が必要である。

生涯学習フェスティバルの開催

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・第12回生涯学習フェスティバルを開催した。
期 間 : 10月31日(土)・11月1日(日)
会 場 : 河北台中学校講堂、河北台健民体育館、七塚生涯学習センターなど
内 容 : 芸能発表会、各種展示会(体験コーナー)、フリーマーケット、図書館まつり
生フェスクイズラリー
記念講演 : 篠井英介氏 「石川県に生まれて ~演劇一筋~」
長年演劇一筋に打ち込んできたことや「ふるさと石川」に対する思いについて語ったほか、フロアからの質問にも気軽に答え、来場者は篠井さんのプロとしての気配りや心構えについて聴き入っていた。
- ・イベント会場内の回遊性を高めるため、初の試みとしてクイズラリーを実施した。小学生同士、または幼児と親子を中心に、かほく市のことを知るクイズに楽しんで取り組めた。また、副賞に図書館まつり古本市の10冊無料券を配布したところ、約50組の利用があった。

< 課題 >

- ・出演者や出品者が固定化し、「毎年来場する人」と「一度も来たことがない人」の二極化が未だに見られる。

- ・ 展示場所、ステージプログラムともに時間的、空間的に飽和状態である。
- ・ 内容の見直しや工夫を重ねて市民の興味関心と来場者の満足度を上げ、リピーターの増加と新規来場者の呼び込みを促進する必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
生涯学習フェスティバル 作品展示会場来場者数	6,079	5,022	5,558	7,300

市民大学講座事業の展開

担 当 課 生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・ かほく市民大学校としての講座を展開した。
 - 一般教養コース：前期 7 講座・後期 13 講座
 - 女性教養コース：2 講座、 家庭教育コース：2 講座
- 個の学びの意欲に応えるとともに、学びを通じた交流の輪の拡大を図った。
- いつでも、どこでも、だれでも、自由に自主的に学べる機会として、講座を展開した。
- 学びによる豊かな人間性の育成を図った。

H27 かほく市民大学校 講座

種 類	回 数	
一般教養コース	一般	9 回
	ふるさと学	1 回
	健康・食	7 回
	多文化共生・人権	2 回
	国際交流	1 回
女性教養コース	2 回	
家庭教育コース	2 回	
合 計	24 回	

< 課題 >

- ・ 市民大学校の受講者アンケートや社会情勢、時勢などを踏まえ、市民ニーズ（世代別、性別など）に応じた内容の見直しを継続し、併せて開催曜日や時間を検討する必要がある。
- ・ 哲学館や図書館との共催の講座や講演会を増やす必要がある。
- ・ 様々な情報媒体や社会教育団体等の会合などを利用して、更にかほく市民大学校をPRする必要がある。
- ・ 単なる個人学習の講座ではなく、社会貢献や社会参画など誰かの役にたつよるこびにつながる内容を盛り込む必要がある。

数値目標項目	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
市民大学講座延べ受講者	722	683	2,000

基本的方向 3 - (2) 地域のコミュニティ活動の推進

達成状況

B

地域住民が主体となる学習環境の整備

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・地域住民への学習機会の提供として、行政の取組の説明や職員の専門的知識等を生かした「出前講座」を実施した。

出前回数：計 35 回

参加人数：延べ 1,289 人

H27 出前講座 開催回数の多かったもの

講座名	担当課	回数
『寸劇』あなたの身近にある消費者トラブル	消費生活センター	8 回
健康体操『ちょいトレ』をやってみよう!!	健康福祉課	6 回
『講義』悪質なトラブルの被害者にならないコツ	消費生活センター	4 回

< 課題 >

- ・町会・区、公民館、老人クラブ、女性団体等の利用が多く、本事業の認知度は上がったと判断できる。引き続き地域のニーズに配慮しながら、講座メニューの見直しと新しい講座メニューを設ける必要がある。
- ・地域コミュニティとしての自主的学習に利用されていることから、今後も地域の連帯や融和につながる内容を盛り込む必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
出前講座の受講者数	679	813	1,289	800

地域活動の拠点となる施設の整備

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・地域活動（地域のコミュニティ活動）の拠点施設として、公民館施設の修繕等を進めた。

* 公民館の修繕

地区からの要望により、公民館の修繕を実施した。

- ・遠塚公民館漏水部防水修繕
- ・外日角公民館植栽帯環境整備
- ・気屋公民館トイレ改修
- ・宇野気公民館空調設備修繕
- ・金津公民館空調設備修繕
- ・上田名公民館玄関前スロープ取付など

< 課題 >

- ・公民館の修繕等については、「生涯学習施設等維持管理事業実施基準」に基づき、地元協力金を財源充当しながら対応しているが、市の将来的財政負担の厳しさを考慮し、長期的に持続可能な制度への見直しが必要である。

地域活動団体への支援体制の確立

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・ 地域の活動団体への支援
主に女性会、子ども会の団体活動に対して、事務的支援を行った。
 - ・ 補助金の交付
七塚地区（7館）・宇ノ気地区（9館）の各地区の社会教育振興会（地区公民館）に補助金を交付した。
地区文化祭、運動会、花いっぱい運動など地域主体の活動が展開された。
 - ・ 市民交流大会の開催に向けた体制整備
高松地区に社会教育活動連絡員を配置し、公民館長連絡会との連携を整えたことにより、七塚・宇ノ気・高松の全地区を含めた第2回かほく市民交流大会を実施した。
- 第2回かほく市民交流大会 -
- * 日時：平成27年11月29日（日）8時30分～
 - * 場所：河北台健民体育館
 - * 参加：45チーム 258人

< 課題 >

- ・ 子ども会や女性会への支援、地区公民館への支援については、高松、七塚、宇ノ気の各地区の相違と現状を踏まえて進める必要がある。

町会・区との連絡体制の整備

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・ 公民館長連絡会
七塚地区、宇ノ気地区については、地域の公民館長との連携をもって区との連絡体制を整えた。
- ・ 高松地区の社会教育活動連絡員の選出
高松地区の8ブロックから社会教育活動連絡員を選出し、全町会区との連携体制を整えた。これにより、かほく市全体としての市民交流大会の実施につなげることができた。

< 課題 >

- ・ 高松地区の社会教育活動連絡員については、高松公民館と町会・区（地域）のパイプ役として、今後更に連携を強化し、高松公民館事業の展開に結び付けていくことが必要である。

基本的方向 3 - (3) 読書環境の充実と読書活動の推進

達成状況

B

図書館サービスの強化

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・レファレンスサービスの向上や読書案内の充実を図り、市民の暮らしに役立ち、知的好奇心を満たし、心豊かな生活を支援する図書館づくりを推進した。
- ・ケーブルテレビ、広報紙、ホームページを通じて、図書館の資料・事業・サービスについて情報発信した。

主な情報内容：新刊情報案内、図書館事業案内など

- ・毎月23日を「市民読書の日」とし、周知をかねてその前後の日曜日に様々なイベントを開催した。（コンサート、講演会、朗読劇、人形劇など）
- ・「図書館友の会」やボランティア人材との連携を図り、図書館運営協力者会議での意見を踏まえながら、市民の声を取り入れ、市民に親しまれる図書館づくりに努めた。
 - おはなしボランティア「やまんば」によるお話会（年間50回、参加人数1,341人）
 - おはなしボランティア「そらいろのたね」によるお話会（年間17回、参加人数275人）

< 課題 >

- ・図書館活用講座にて、貸出・返却以外の図書館サービスを知ってもらう取組を行ったが、引き続き広報紙を通して広く周知する必要がある。
- ・「市民読書の日」事業の内容の見直しや親子対象事業の工夫などにより、来館者の増加を図る必要がある。
- ・時代とともに変容する学習室の利用状況を考慮したうえで、運営の改善を適宜進める必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
中央図書館来館者数	112,809	133,607	133,793	15万人
年間貸出人数(中央図書館分)	49,142	49,243	47,974	55,000

子どもの読書活動の推進

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・読書を通じた子どもの健やかな成長のための取組
 - *健康福祉課と連携し、4ヶ月検診とあわせてブックスタート事業（読みきかせ、絵本プレゼント、読書案内、図書館案内）を行った。（年間21回開催、参加人数257人）
 - *市内保育園・幼稚園の年長児を招待しお話を開催した。（年間12回、参加人数316人）
 - *子育て支援センターに出向き、未就園児と保護者等を対象にお話を開催した。（年間35回、参加人数504人）
 - *小学校に出向き、お話を開催した。（七塚小、年間4回、参加人数298人）
- ・子どもの関心と読書を結びつける取組
 - *手づくり絵本教室（全2回、参加人数30人）
 - *調べる学習教室（1回、参加人数41人）
 - *ブックマラソン（参加人数262人）
 - *健康福祉課と連携し、絵本に出てくるお菓子を作り、絵本の世界を楽しんだり、読書の幅を広げる「絵本で楽しむクッキング」を開催した。（年3回、参加人数61人）

<ul style="list-style-type: none"> * 茶会とお話会（参加人数 60 人） たなばた工作とお話会（参加人数 15 人） 朗読劇（参加人数 110 人 小学生 15 人・中学生 15 人）と関連展示（参加人数大人含め 240 人）など子どもたちが楽しめる事業を開催した。 ・ 読書活動の励みになる取組 <ul style="list-style-type: none"> * 調べる学習コンクール（応募数 644 点） 手づくり絵本コンクール（応募数 84 点）及び作品展、表彰式を行なった。 * 読書日記展を開催し、子どもたちの読書活動の様子を紹介した。（市内 6 小学校より 2 名ずつ） * 小学校 3 年生を対象に、国語科「本は友だち」の学習の一環として、図書館の使い方や工夫などについて授業を行った。 < 課題 > <ul style="list-style-type: none"> ・ お話会の多数開催など、子どもの読書活動の推進に関する取組が評価され、文部科学大臣表彰を受賞した。お話ボランティアとの連携により、引き続き、図書館内外において取組を継続していく必要がある。 ・ 学校現場や学校司書との連携をさらに深め、引き続き、読書日記の活用や調べる学習事業の推進を図る必要がある。
--

市立図書館と学校図書館との連携	
担 当 課	学校教育課・生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館・学校司書研修会を年 12 回開催。情報交換や研修を行い、連携を深めた。 ・ 市立図書館から学校図書館へ貸出資料・返却資料の物流を行なった。（年間 52 回） ・ 学校司書からの情報提供により、授業に役立つ資料を充実させた。 ・ 図書館を使った調べる学習コンクール表彰式を開催した。（入賞者 13 人） ・ 図書館を使った調べる学習コンクールの審査委員は、各小学校から 1 人と市立図書館職員で構成した。 ・ 市立図書館・学校図書館関係の担当で研修会を開催した。（学校図書館担当教員・学校司書・市立図書館職員が参加。） <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館と学校図書館の連携を促進するためには、引き続き、市立図書館司書と学校司書及び学校図書館担当教員との緊密な関係を保つ必要がある。今後も 3 者による定期連絡会を開催し、意識の共有と相互理解を図ることが必要である。 	

ICT化への取り組み	
担 当 課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川県立図書館主催のネットワーク会議や市立図書館研修会に参加し、情報収集に努めた。 ・ 学校図書館間のシステム統合について検討した。 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍の導入について調査を進める必要がある。 	

石川県西田幾多郎記念哲学館の充実

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・常設展示に加え、企画展を開催した。
 テーマ：西田幾多郎の日記 平成 27 年 3 月 21 日～平成 27 年 6 月 7 日
 テーマ：哲学者の歌 平成 27 年 6 月 9 日～平成 28 年 1 月 31 日
 テーマ：哲学者の随筆 平成 28 年 2 月 2 日～平成 28 年 6 月 26 日
- ・西田幾多郎博士没後 70 年記念事業として、講演会を開催した。
 6 月 6 日 会場：哲学ホール 参加者 150 人
- ・北陸新幹線開業年として、関東圏（東京・長野）への情報発信事業として、シンポジウム、講演会および展示会を開催した。
 7 月 20 日 会場：上智大学 参加者 140 人
 8 月 2 日 会場：信濃教育会生涯学習センター 参加者 110 人
- ・中級者、上級者向けの「西田幾多郎哲学講座」、「善の研究」を一章ずつ読みすすめる「寸心読書会」、3泊4日の「夏期哲学講座」、禅文化を体験する「座禅会」を開催した。また、講座終了後に喫茶室において講師を囲んで哲学について討議する「哲学カフェ」を実施した。講師と気軽に討論できる場として、参加者の好評を得た。
- ・単なる座学ではなく、体験して楽しむ講座を開催し、新たな客層の参加を図った。
 『入門講座』 4 回 参加者 288 人
 『Let's 哲学』 2 回 参加者 56 人
 『研究員と聴く、哲学の授業』 参加者 58 人
- ・各種研修の受入と出前講座を行った。
 研修受入人数：延べ 275 人、出前講座：延べ 8 回
 大学等のゼミナールによる哲学館利用の促進を図った。
 かほく市宿泊施設制度利用による来館実績：
 3 大学（玉川大学、立教大学、立命館大学）、延べ 22 人

< 課題 >

- ・ホームページの充実も含め県外への情報発信を強化するとともに、かほく市宿泊施設利用助成制度をより広くPRし、交流人口のさらなる拡大を目指す必要がある。
- ・交流人口の引き込み策としての県外事業の継続的な実施、及び特色ある講座等の実施が必要である。併せて、大学や博物館等との連携強化を図る必要がある。
- ・収蔵資料の整理、分析をさらに進め、かつデータベース化に取り組み、今後の展示会等にて公開・情報発信を進めていく必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
西田幾多郎記念哲学館の 年間総利用者数	23,541 (H20～24の平均)	25,217	24,357	25,000

うみっこらんど七塚「海と渚の博物館」の充実

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・漁具を中心とした民俗資料の公開と市民ギャラリーでの作品展示を行い、キャンプ場及びバーベキュー場の提供による人々の交流活動を促進した。
- ・博物館展示室観覧者数 11,252 人（うちギャラリー入場者数 7,792 人）
平成 21 年度以降では最多の観覧者数となった。
- ・「市民ギャラリーうみっこ」での展示会の開催 35 回
（主な展示会）
木版画展、押花アート展、かほく市絵画愛好会グループ展、松本清治遺作展
うみっこ企画展 2015、写真愛好家 70 人+ 展、かほく市書道協会展、P F U 社友会作品展
Kふれんず 2015 グラスアート展、MOA美術館かほく市児童作品展、
HAND AND HAND コラボ展、私の作品展
- ・キャンプ場等利用者数 10,026 人（うちバーベキュー場利用者数 5,430 人）
10 年振りに、1 万人を超える利用者数となった。

< 課題 >

- ・新たにポータルサイトに掲載を行ったが、更にインターネット、ホームページ、ケーブルテレビ、関連雑誌など、情報媒体の利用拡大を図り、施設最新情報の発信と P R を進め、更なる来場者の増加を図る必要がある。
- ・平成 21 年度以降では最多の観覧者数となったが、市民の芸術文化活動の発表の場である「市民ギャラリーうみっこ」の利用促進について、改めてホームページや広報紙での周知活動を進める必要がある。
- ・利用者の利便性向上や施設利用の促進の観点から、現行の管理、運営体制の見直しについて、継続的に検討していくことが必要である。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
うみっこらんど七塚の 年間総利用者数	20,063 (H20～24の平均)	18,614	21,278	21,000

基本的方向4 - (1) ふるさと学習の充実

達成状況

B

地域に根ざした学習活動の推進

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

【図書館事業】

- ・ふるさとクイズ大会を開催した。(4月26日、参加人数20人)
- ・ふるさとかるた大会を開催した。(1月24日、参加人数10人)

【文化財事業】

- ・遠足や歴史学習の場として、史跡の活用を図った。(小学校3件)
- ・金津小、大海小の児童を対象に、学校授業の一環として長柄用水の見学会を実施した。

< 課題 >

- ・学校と連携して、地域の歴史や文化に触れる機会を増やす必要がある。
- ・一般市民のふるさと学習促進のため、かほく市観光ボランティアガイド等との連携による新たな取組を実施するとともに「かほく市民大学校」の内容充実を図る必要がある。

四季の風土を感じるプログラムの実施

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・市子ども会の支部において、体験活動を取り入れた研修会が実施された。
 - 高松支部：交流会における流しそうめんづくり
 - 七塚支部：リーダー研修や合宿錬成会における自然体験、キャンプ体験
 - 宇ノ気支部：リーダー研修におけるキャンプ体験
- ・天体観望会を開催し、四季折々の星座観察と学習の機会を提供した。
 - 開催回数：15回
 - 参加者数：平均15人/回

< 課題 >

- ・市民大学校の講座において、自然や環境に関する観察会や体験活動などを組み入れる必要がある。

かほく市ゆかりの人物の紹介と全国への発信

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・西田幾多郎の紹介・発信

- * 西田幾多郎記念哲学館において、市内の小学校5年生、中学校2年生を対象に西田幾多郎の生き方や考え方について学ぶ「共通道徳」を実施した。児童生徒が、西田幾多郎の生き方について学び、道徳的価値観を得る機会とした。
- * 石川県学童話し方大会や全国吟詠大会を開催し、西田幾多郎博士の偉業や努力を知り、郷土を愛する心の醸成を図った。
- * 西田幾多郎博士没後70年記念事業及び北陸新幹線開業に伴う関東圏からの誘客を図るため、6月6日に哲学館において寸心忌記念講演会を開催し、7月20日に上智大学にて西田幾多郎没後70年記念シンポジウムを開催した。また、岩波書店発行の図書においてシンポジウム内容が紹介され全国への情報発信に繋がった。
- * ゆかりの地の長野安曇野市教育委員会の協力のもと、生涯学習講座の1講座として、8月2日に信濃教育会生涯学習センターにて、“『西田幾多郎-生きることと哲学』を読む - 纯粹経験を中心に - ”と題し講座を開催した。
これらの事業を通じて、国内外に西田幾多郎を広く発信した。

・鶴彬の紹介・発信

- * 高松産業文化センター2階の展示スペースにおいて、鶴彬の紹介コーナーを設置した。
- * 高松川柳会が主催する全国公募の「第20回鶴彬川柳大賞」の事務支援を行い、全国への情報発信を図った。
投句者数：212人
- * 鶴彬を顕彰する会が主催した「鶴彬のふる里市民川柳祭」に文化活動支援事業補助金（石川県文化振興基金 1/2 市 1/4）を交付した。
【事業内容】
 - ・「鶴彬」かほく市民川柳作品
応募者：小学生247人、中学生133人、一般30人
 - ・高松小学校、大海小学校6年生を対象に、宇部 功氏による特別授業を実施した。
 - ・まちかど交流館の鶴彬関係資料室にて川柳教室を開催し、7人が参加した。

・櫻井三郎左衛門の紹介・発信

- * 高松自治文化協会の主催事業 児童劇「勇気ある知恵者 櫻井三郎左衛門物語」に文化活動支援事業補助金（石川県文化振興基金 1/2 市 1/4）を交付した。
【事業内容】
 - ・11月25日に高松小学校にて、2月11日には高松産業文化センターにて、3月26日にはアステラス（宝達志水町）にて公演を行った。

・東善作の紹介・発信

- * 東善作の功績を顕彰する事業として開催された「第20回石川県紙ひこうき大会 in かほく」に補助金を交付し、併せて大会の運営支援を行った。（参加者：181人）

・「かほく市文化財ガイド」の作成

- * 市内の史跡や偉人、昔話などをまとめた文化財ガイドリーフレットを作成し、市内公共施設の窓口等に設置した。

< 課題 >

- ・西田幾多郎はもちろんのこと、かほく市ゆかりの人物に係る紹介と発信につながる事業を展開し、市民のふるさと学習機会を充実させる必要がある。
- ・哲学館多言語版リーフレットなどを作成し、外国人への観覧環境の充実を図る必要がある。

すぐれた芸術に触れる機会の提供	
担当課	学校教育課・生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スク - ルシアタ - を開催した。(県との共催) <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 6月5日(金) 大海小学校体育館 * 参加者 大海小学校全児童及び教職員、保護者 約110人 * 公演内容 劇団芸優座による創作劇「角 ~いじめっこ姫の物語~」 ・オ - ケストラ鑑賞教室を開催した。(県との共催) <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 6月8日(月) 河北台中学校講堂 * 参加者 河北台中学校全生徒及び教職員、保護者等 約400人 * 演奏内容 オ - ケストラ・アンサンブル金沢による演奏 ・西田幾多郎記念哲学館リニューアル1周年記念スプリングコンサートを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 3月3日(木) 西田幾多郎記念哲学館 * 参加者 一般市民 130人 * 演奏内容 オ - ケストラ・アンサンブル金沢メンバー4人による弦楽四重奏 ・かほく市立中央図書館読書の日事業 朗読劇「モモ」を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 3月21日(祝・月) 七塚生涯学習センター 視聴覚講義室 * 参加者 一般市民 110人 * 演奏内容 わらべうたとえんげきの広場はちみつのメンバー4人による朗読劇および生演奏 ・市民ギャラリーうみっこで展示会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 開催回数 計35回 * 主な内容 書道展、木版画展、絵画展、水墨画展、生花展 ほか <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も石川県や市文化協会、中央図書館や哲学館、うみっこらんど七塚との連携を図りながら、すぐれた芸術鑑賞の機会を提供し続けることが必要である。 	

文化活動団体・個人への支援	
担当課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <p>【かほく市文化協会の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既加入協会の中でも新たなグループが加わり、より多彩な活動を展開している。 ・平成27年度よりフラワーデザイン協会が新たに加入した。 ・毎年4月に配布する「文化活動団体紹介」は、シニアデビューなど、新たなことに挑戦する方たちの生きがい創出に活かされている。 ・全国大会出場者激励費(文化振興激励費)の支給により文化的活動を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> * 第30回国民文化祭あきた2015 競技かるた部門 1人 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市文化協会の伝承芸能保存協会に新たなグループが加入し、パッチワーク協会にビーズステッチ部門が加入して手芸協会に改名するなど、単位協会での活動の活性化は確認できた。一方では、単位グループ自体の高齢化に加え、全体会員数が年々減少傾向にあることには変わりなく、活動を休止したグループもある。多様な媒体を活用した情報発信を継続するサポートが重要である。 ・平成27年度よりスタートした「文化活動支援事業」(石川県文化振興基金1/2市1/4)のPRに努め、市民自らが主体的に「ふるさと学習」「すぐれた芸術活動」等に関わることができるよう、支援していく必要がある。 	

地域や世代を越えての交流の促進

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・生涯学習フェスティバルの芸能発表ステージにおいて、市内7コーラスグループによる「100人コーラス」、かほく市吹奏楽団と市内3中学校吹奏楽部による「100人バンド」を継続した。大人数が参加してのステージは迫力と感動があり、好評を得ている。
- ・芸能発表ステージにおいて詩吟の朗詠とともに花を生ける「華道吟」を初めて行った。
- ・子ども文化教室として開催した「子ども煎茶教室」では、市内小学生9人が日本古来の礼儀作法や和のこころについて、煎茶道を通じて学び体感した。

< 課題 >

- ・これまでの枠組みを越えた連携や協働による活動の可能性を引き続き模索し、文化活動の活性化を図る必要がある。
- ・文化協会所属以外の情報は掴みにくいが、人材発掘に努め、市民向け講座等への関わりを促すなど、文化活動の充実と市民相互の交流を促進する必要がある。

基本的方向 4 - (3) 未来に伝える文化財の保護と活用

達成状況

C

歴史学習の充実

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・市民大学校において、県関係機関から講師を招いて講座を開き、郷土の歴史及び文化財を知る機会を提供した。
* 『江戸時代のかほく市の村々』 石川県立図書館史料編さん室 室員 瀬戸 薫 氏
- ・「かほく市文化財ガイド」を作成した。

< 課題 >

- ・「かほく市文化財ガイド」を活用した取組を行う必要がある。
- ・歴史学習に関わる新たな取組について、観光ボランティアガイドや市民グループとの協議を進める必要がある。

考古、歴史、民俗資料の活用

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・市内の考古、民俗資料など文化財資料を高松第四保育園跡地の収蔵施設にて管理した。
- ・一部の文化財について、七塚生涯学習センター、高松産業文化センターの展示コーナーで公開した。

< 課題 >

- ・既存施設の展示スペースを活用したミニ展示会の開催、生涯学習フェスティバルでの公開、市民大学校での公開など、文化財資料を公開する機会の更なる創意工夫を進める必要がある。

国、県、市指定文化財の保護と活用

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・史跡整備されている上山田貝塚（国指定史跡）、大海西山遺跡（県指定史跡）については、社会科等の見学先として市内外で活用された。
* 遠足 4月27日 宇ノ気小学校
いずれも大海西山弥生の里（事前に生涯学習課に利用申請があった学校・団体のみ掲載）
- ・喜多家しだれ桜の保護措置に対して助成を行った。

< 課題 >

- ・喜多家しだれ桜の保護措置を継続し、観察していく必要がある。
- ・市指定文化財の現況調査と新たな文化財の掘り起こしを適宜進めていく必要がある。

地域学習や学校授業への活用

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・大海西山遺跡にちなみ、市内5小学校で弥生土器づくりを実施し、うち大海小・高松小については大海西山弥生の里を会場に土器焼き体験を行った。

【平成27年度】

大海小19人、高松小78人、七塚小57人、外日角小67人、金津小14人、宇ノ気小139人
いずれも対象は小学6年生。なお宇ノ気小学校は、遠足の際の火起こし体験のみ実施。

< 課題 >

- ・文化財活用事業については、他の市町の取組を参考とした見直しが必要である。
- ・学校における文化財活用事業については、担当教員と十分な打合せを行い、教員の求める授業づくりに応える工夫が必要である。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
歴史教室講座数	6	6	6	10

保管活用施設等の充実

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・従来は市内各所に分散して収蔵していた文化財資料を高松の収蔵施設に集約し、一括して保存管理することができている。
- ・高松産業文化センター、七塚生涯学習センターの展示コーナーにおいて、郷土資料等の展示を行った。

< 課題 >

- ・収蔵施設については経年劣化が進行していることから、貴重な文化財の適切な保管のため、適宜修繕・改修を進めていく必要がある。
- ・一括収蔵資料をより効果的、体系的に展示・活用する方策について、他の市町との連携を含めて活用方法を協議する必要がある。

職員の専門性の強化

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・文化庁主催の埋蔵文化財保護行政基礎講座に参加した。
- ・県文化財課や他の市町が実施する試掘調査等にも随時同行し、現場作業の経験を重ねた。

< 課題 >

- ・近隣市町の調査に参加するなどにより、引き続き実践的経験を積み重ねる必要がある。
- ・埋蔵文化財取の扱い事務については、金沢市・小松市など先進的事例を参考として様式の作成、マニュアル化を進める必要がある。

基本的方向 5 - (1) 生涯スポーツの推進

達成状況

B

スポーツ推進委員の役割

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・スポーツの実技指導・助言、連絡調整の役割を担っているスポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会へ派遣した。
 - * 全国スポーツ推進委員研究協議会（愛媛県）
 - 期日 11月12日（木）・13日（金） 3人
 - * 北陸地区スポーツ推進委員研修会（福井県越前市）
 - 期日 7月4日（土）・5日（日） 5人
 - * 石川県スポーツ推進委員協議会実技研修会（内灘町）
 - 期日 12月6日（日） 13人
 - * 河北郡市スポーツ推進委員協議会実技研修会（内灘町）
 - 期日 1月30日（土） 12人
- ・生涯スポーツ活動の普及・推進を図る事業の実施に際して、市との連携を図り、積極的に企画運営に協力した。
 - * かほく市民ふれあいウォーク
 - * かほく市スポレクサーキット大会（3種目）
 - * ラジオ体操指導者講習会（3地区）
 - * 宇野気区民合同ラジオ体操
 - * かほく市民体力テスト
 - * 河北潟一周駅伝競走大会
 - * かほく市民交流大会
 - * 高松支部子ども会対抗綱引き大会
 - * かほく市制施行記念継走大会

< 課題 >

- ・スポーツ活動の普及と推進、実技指導や助言といったスポーツ推進委員の役割をPRし、新たな人材を求めて、活動を活性化することが大切である。
- ・派遣枠に限りがあるものの、研修会への参加委員に限られ固定化している。多くの委員の参加を促すことが必要である。
- ・スポーツ啓発活動としての「市民ふれあいウォーク」や「スポレクサーキット大会」については、参加者の募集方法も含めて見直しを検討する必要がある。

体を動かす機会の提供と日常化の促進

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・市民の健康・体力づくりのため、スポレクサーキット大会、サンドヒルグラウンド・ゴルフ大会、市制施行記念継走大会等の各種スポーツ大会を開催し、生涯スポーツの普及・啓発を図った。
- ・スポレクサーキット大会では、少年少女、一般男女の部門での競技を行い、子どもから高齢者まで参加できる大会として実施した。気軽にスポーツに親しむ機会を提供した。

参加登録チーム総数：40チーム 登録人数総数：294人

平成 27 年度	第 1 戦（カローリング）	小計	27 チーム	
	第 2 戦（ペタンク）	小計	25 チーム	
	第 3 戦（トリプルワトパー）	小計	31 チーム	合計 83 チーム

- ・市制施行記念継走大会は、平成 26 年度にコースの見直しを行い、小学生部門を新設したが、平成 27 年度において、一般男子及び小学生部門でチーム数の減少が見られた。

(参考：市制施行記念継走大会参加チーム数)

平成 27 年度	一般男子	(32 チーム)	一般女子	(9 チーム)	合計 122 チーム
	中学男子	(30 チーム)	中学女子	(12 チーム)	
	市外一般男子	(14 チーム)	小学生	(25 チーム)	
平成 26 年度	一般男子	(40 チーム)	一般女子	(5 チーム)	合計 142 チーム
	中学男子	(35 チーム)	中学女子	(13 チーム)	
	市外一般男子	(12 チーム)	小学生	(37 チーム)	

< 課題 >

- ・誰でも気軽に参加できる「スポレクサーキット大会」については、公民館、町会、企業などの単位での参加も呼びかける必要がある。
- ・最も身近で気軽な運動である「ウォーキング」を広く普及するため、ウォーキングクラブとの連携による事業展開を検討していく必要がある。
- ・市役所周辺の周回コースへ変更した「市制施行記念継走大会」については、大会予定をPRするとともに大会趣旨を広く市民に周知し、参加チームの増加を目指す必要がある。

他団体との連携による健康・体力づくりの取組

担 当 課	生涯学習課
-------	-------

< 取組内容・成果 >

- ・健康づくり、体力づくりを促進するため、高齢者の健康クラブと児童のスポーツ少年団の活動を支援した。
- ・石川県立看護大学との連携により「市民体力テスト」を実施し、各自の体力年齢の把握と今後の日常運動に対する指導を実施した。参加人数は平成 26 年度 88 人に比べ平成 27 年度 122 人と大幅に増加した。健康クラブ会員への参加を促し、自身の体力年齢を知り体力づくりの習慣化の必要性を認識する機会とした。

< 課題 >

- ・各種スポーツ団体への参加会員数は増となっているものの、健康クラブは会員の高齢化と減少が進んでおり、新規会員の加入を促すことが必要である。
- ・市民体力テストの参加総数は増加したが、年齢層区分に偏りが見られた。青年層、中年層の参加呼び掛けが必要である。
- ・「市民体力テスト」のデータの集積を進め、同データを活用して、石川県立看護大学や健康福祉課と連携した健康指導などの取組を検討する必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
健康クラブ、スポーツ少年団、体育協会、 総合型地域スポーツクラブの会員数	9,200	10,278	9,776	9,500

基本的方向 5 - (2) 競技スポーツの拡充・強化、底辺の拡大

達成状況

B

各種スポーツ大会の実施

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・ 競技スポーツの競技力の向上と競技人口の底辺拡大を図るため、各種大会を実施した。

- 主な大会 -

- * 第 12 回かほく市総合体育大会
- * 第 67 回石川県民体育大会（体育協会）
- * サンドヒルかほく市 2015 グラウンド・ゴルフ大会
- * 第 12 回かほく市学童招待野球大会
- * 第 20 回新化旗争奪全国中学校選抜剣道大会
- * 第 37 回加賀能登少年剣道大会
- * 第 12 回河北郡市中学校春季ソフトボール大会
- * 第 15 回河北郡市中学校春季バスケットボール大会

< 課題 >

・ スポーツ大会の実施については、スポーツ少年団、中学校部活動、体育協会の十分な連携が引き続き必要である。

児童、生徒の競技力向上のための大会の開催・支援

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・ 体育協会加盟の単位協会並びにスポーツ少年団加盟団体等が主催・協力し、児童・生徒の競技力向上のために開催する各種競技大会等を支援した。

- 支援事業 -

- * 第 12 回かほく市学童招待野球大会
- * 第 20 回新化旗争奪全国中学校選抜剣道大会
- * 第 37 回加賀能登少年剣道大会
- * 第 12 回河北郡市中学校春季ソフトボール大会
- * 第 15 回河北郡市中学校春季バスケットボール大会

・ スポーツ少年団へ活動補助金を交付した。

< 課題 >

・ 各種競技大会等の支援の継続と市体育協会加盟団体との連携により児童・生徒の競技力向上のため有能な指導者の人材確保を図る必要がある。

競技スポーツ指導者の育成と指導体制の強化

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・指導者育成のため、各競技の公認審判員等の資格取得のための研修・登録費用の一部助成を行った。公認審判員の資格取得を奨励した。

公認審判員取得奨励金支給人数 65人（うち新規9人）

（内訳）陸上競技	20人	ゲートボール	3人
ソフトボール	10人	トランポリン	27人
水泳競技	4人	オリエンテーリング	1人

参考【H26】 69人（内新規22人）

陸上競技	20人	トランポリン	29人
オリエンテーリング	1人	ゲートボール	4人
ソフトボール	11人	水泳	3人
レクリエーション	1人		

- ・平成26年度と比較し奨励金支給人数、新規登録・申請者は減少した。
- ・競技によって登録の有効期限が異なるため、年度ごとに申請者数に違いが生じるが、かほく市における支給資格登録者数は着実に増加している。

< 課題 >

- ・ジュニア期から成年期までの一貫した指導体制の確立を図るため、体育協会との連携による指導体制を促進する必要がある。
- ・公認審判員の有資格者は、平成27年度末現在で223人であり、今後も指導者の育成と指導体制の強化のため体育協会やスポーツ少年団の会議等の場で周知し資格の取得を促す必要がある。

全国大会等出場者への激励

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・競技スポーツの振興を図るため、全国大会へ出場する選手・監督等に対して激励費を支給した。また激励会を開催し、上位入賞をめざす精神的高揚を図った。

平成27年度から市内に住所を有する中学生以下の全国大会への出場者に対し、交通費等の必要経費に対する助成を行い、保護者の負担軽減を図った。

- 全国大会出場実績 -

計：29大会 148人〔内訳：中学生以下（18大会 45人）、高校生以上（11大会 103人）〕

< 課題 >

- ・児童生徒の全国大会出場を支援するため、激励費支給制度を堅持し、交通費等の助成を継続することが必要である。

基本的方向 5 - (3) スポーツ団体の育成支援と連携

達成状況

B

スポーツ少年団への支援	
担当課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の体力向上及び心身の健全な育成を図るため、スポーツ少年団活動への支援として、活動補助金の交付と事務支援を行った。 * 団員数 32 団体 617 人（うち中学生 6 人、幼児 2 人） 【H26：32 団体 631 人（うち中学生 4 人、幼児 11 人）】 * 指導者数 186 人【H26：186 人】 * 市スポーツ少年団としての主な取組 4 月：開講式 7、11 月：スポーツ指導者講習会 7 月：米田安幸氏による講習『夏場の水分補給』 55 人出席 11 月：かほく市消防本部による講習『心肺蘇生法・A E D の使用方法について』 39 人出席 2 月：フェスティバル及び閉講式 <p>スポーツ少年団への加入率（小学生）は市内全児童の約 32% であり、多くの児童がスポーツ活動を行っている。（H26：32%）</p> <p>青少年の健全育成を図るため、夜 9 時までを活動時間とする指導を強化し、規則正しい生活習慣の定着を図った。</p> <p>スポーツ技術の習得だけでなく、社会性、協調性、規律を育む場として大切な役割を果たしている。</p> <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化により児童数が減少傾向にある中、スポーツ少年団への加入年齢の低年齢化が進んでいるが、小学校低学年以下の子どもにとっては、いろいろなスポーツ体験が必要である。 ・ 指導者には、子どもの成長段階に合った適切な指導力が求められており、研修機会の提供と内容の充実が必要である。 	

体育協会との連携	
担当課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育協会並びに加盟競技団体（32 競技協会）との連携により市総合体育大会及び各種競技団体が主催する大会を継続して開催した。 * 市総合体育大会 平成 26 年度（25 競技大会） 平成 27 年度（26 競技大会） * 競技団体主催大会 平成 26 年度（13 競技大会） 平成 27 年度（14 競技大会） 市総合体育大会並びに競技団体主催大会については、開催競技数は増加している。 ・ 第 67 回石川県民体育大会にかほく市選手団として出場し上位入賞を果たした。 * 石川県民体育大会 平成 27 年度結果 男子：総合 8 位、女子：総合 5 位 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の競技団体においては、会員の高齢化が進み、県体出場選手の確保に苦慮するケースが生じてきた。新たな選手加入を促す工夫が必要である。 	

総合型地域スポーツクラブへの支援と連携

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・クラブパレット、クラブパル、クラブタッチの3単位として運営されていた総合型地域スポーツクラブについては、平成26年度からクラブパレットとして統合された。

【クラブパレット概要】

* 会員数 2,693 人 (H28 年 3 月末)

* 教室 (こども向け) 29 教室 教室 (一般向け) 23 教室

その他スタジオ・サーキット事業を実施

・クラブパレットに体育施設 (8 施設) の指定管理を委託 (H24 ~ H28)

・宇ノ気体育館のスタジオプログラムや河北台健民体育館のトレーニングジムの運営により市民の体力づくり、健康づくりを進めた。

< 課題 >

・体育施設の管理運営について総合型地域スポーツクラブと連携し、施設運営を通してクラブ活動を支援していくことが引き続き必要である。

健康クラブへの支援

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・高齢者の運動の日常化を促進し、体力・健康増進を推進するため、市内の3つの健康クラブに対する支援 (送迎バスの手配、指導者の派遣) を行った。

・活動を通じて、体力・健康づくりと会員の相互交流が図られた。

< 課題 >

・健康クラブの会員数は、若干減少傾向にある。クラブ会員の高齢化が進む中で、退会する会員数に対し、新規会員数が少ないことが原因であり、会員募集の創意工夫に努める必要がある。

・健康クラブの活動内容が固定化しつつあるが、多様な運動を取り入れたり、他事業への参加を促すなど、活動の幅を広げていく必要がある。

(参考)

【健康クラブ概要】

・会員数

高松健康クラブ 67 人 七塚健康クラブ 67 人 宇ノ気友垣健康クラブ 73 人

・活動内容 週1回活動 (軽運動・ダンス・健康相談 (市長寿介護課による))

・市からの支援内容

* 週1回の活動時の送迎バス手配

* 能登地区交歓大会 (5月20日) 県健康クラブ交歓大会 (10月15日) 研修会 (6月11日、11月5日) の送迎バス手配

* 活動への講師の派遣 (高松健康クラブ・七塚健康クラブ)

各種団体の相互連携支援

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

・スポーツ少年団、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、健康クラブといった各団体は、それぞれにおいて概ね充実した活動を行い、全体として市のスポーツ環境の充実に寄与した。

・各団体の活動が個々の活動にとどまり、有機的に結びついた活動は見られなかった。

< 課題 >

・市が主体となっていく事業に参加を呼びかけるなど、まずは各種団体が一緒に活動する場を設ける必要がある。

・スポーツ関係団体以外の医療、介護、保健の関係部署や県立看護大学との連携により、健康づくりを推進する体制作りが必要である。

基本的方向 6 - (1) 安心して学べる教育環境の充実

達成状況

B

学校防災マニュアルの策定

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・平成 26 年 3 月に作成したポケットサイズの防災ハンドブックを市内小中学校教員に配付し、万が一の災害に備える一助としている。

< 課題 >

- ・市内小中学校が、災害時における拠点避難所となっていることから、避難所運営マニュアルの運用について日頃から理解しておく必要がある。
また、災害時に拠点避難所として設けるべきスペース（避難者生活スペース、救護室、介護室等）について、事前に防災担当課と協議しながら、選定しておく必要がある。

自分の身を守る教育の充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・各小中学校において、地域住民や P T A、見守り隊等の協力により、登下校における児童・生徒の安全確保が図られた。
- ・各小中学校において、避難訓練を実施し、また県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」による地震の際の初動対応である「しゃがむ」「隠れる」「じっとする」といった安全行動についても取り組み、自分の身は自分で守るという意識を醸成することができた。
- ・学校防災アドバイザー派遣事業を効果的に活用し、防災意識を高めることができた。
*平成 27 年度 高松小学校

< 課題 >

- ・学校における避難訓練が実生活の中で生かせるようなものとなるよう、実践内容を吟味する必要がある。また、学校防災アドバイザーの指導を受けながら、各種マニュアルも随時更新していく必要がある。

育英制度、奨学金制度の充実

担当課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・高等学校及び高等専門学校に進学または在学する生徒で、成績が優秀にして、かつ経済的理由により修学が困難な者に対して、修学上必要な学資金を支給し、将来有能な人材育成として支援した。
*平成 27 年度 出願者 26 人 うち 15 人に対して奨学金を支給（月額 8,000 円）

< 課題 >

- ・奨学金制度の原資となる育英基金が、あと 5 年程度で底をつく状況にある。制度を継続すべきかどうかも含めて、制度全体のあり方について検討する時期にきている。

老朽建物の改築・改修

担当課 学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・平成 6 年度から平成 7 年度に建設した金津小学校が 20 年経過したことから、国の補助採択を受け、大規模改造工事に着手した。(平成 28 年度へ繰越)
- ・普通教室のエアコン設置に向けて、実施設計を行った。
(高松小学校・大海小学校・宇ノ気小学校・高松中学校)

< 課題 >

- ・市内の学校施設は必要に応じて耐震工事を完了しているが、特に七塚小学校と外日角小学校は老朽化が進み、修繕費が高んできている。両校舎については早急に整備の方向性を決定し、有効な補助金等を利用して整備を進める必要がある。
- ・昨年度の教育総合会議において、小中学校の配置については、現状の 3 中学校区(小学校 2 校、中学校 1 校)を維持していくことで調整されており、今後は、各学校の施設の長寿命化に向けた整備計画を策定する必要がある。

非構造部材の耐震化

担当課 学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・市内 5 小学校及び 1 中学校において、地震に備え体育館の非構造部材の耐震化工事を終えている。

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
学校非構造部材の耐震化	小学校	0.0%	100%	100%	100%
	中学校	0.0%	66.7%	66.7%	100%

< 課題 >

- ・学校非構造部材の河北台中学校講堂のつり天井について、建物機能を生かした耐震化を図る必要があるため、工法等について更なる調査・検討が必要である。

I C T 機器の整備

担当課 学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・電子黒板や大型液晶テレビでわかりやすい授業を行うために、小学校の教科書改訂に併せて、国語・算数・社会・理科のデジタル教科書を 6 小学校分購入した。
- ・教員の事務負担を軽減し、本来業務の充実を図るため、平成 28 年度からの指導要録の電子化導入に向け調査検討した。

< 課題 >

- ・I C T を活用した授業を充実させるために、有効的な活用方法についてモデル校を指定し、研究を推進する必要がある。

環境に配慮した教育設備の充実

担 当 課

学校教育課

< 取組内容・成果 >

- ・市内小中学校全てが「いしかわ学校版環境ISO」に指定されていることから、家庭と協力しながら、リサイクル活動を行うとともに、ツバメ調査の実施、ごみの分別学習、海浜クリーン作戦など各校が積極的に取り組んだ。
- ・石川県の補助事業「エネルギー教育推進事業」により、電気に関する様々な実験を行うことで、電気に関する理解を深め、また太陽光や風力といった環境に優しい次世代エネルギーについても理解を深めた。

< 課題 >

- ・かほく市地球温暖化防止実施計画に基づき、国が掲げる二酸化炭素排出量削減に向けて、さらに推進していく必要がある。
- ・「いしかわ学校版環境ISO」指定校としての取組内容がマンネリ化傾向にある。県内各校の優れた取組を調査するなど検討を進める必要がある。

基本的方向 6 - (2) 生涯学習の拠点となる施設の適正管理と活用

達成状況

B

生涯学習センターの運営管理

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・ 2つの生涯学習センター（七塚・宇ノ気）施設の適切な維持管理に努めた。安心して安全に利用できる生涯学習の場を提供した。

主な修繕等

- 宇ノ気生涯学習センターの空調機サービスタンク給油管修繕
- 七塚生涯学習センターの空調設備修繕

< 課題 >

- ・ 市民の学習の場、成果発表の場としての活用をさらに促すため、施設と設備の適切な管理に努め、良好な施設環境を引き続き保持する必要がある。
- ・ 七塚生涯学習センターの天体望遠鏡の積極的利用を図る工夫が必要である。

地域交流施設の有効活用

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・ 団体活動や地域活動のための施設として、生涯学習センター以外に学校施設などの利用開放を行った。

学校施設開放として、河北台中学校の交流棟や講堂を利用に供した。

- ・ 文化協会の加盟団体などの生涯学習活動の場として、高松産業文化センターや大海交流センターが利用された。

各種生涯学習活動団体による施設の定期利用計画の調整を図った。

生涯学習センター（七塚・宇ノ気）は、生涯学習の振興を図るため設置されたものであり、各種講座の開催に加えて、市民または市民団体の生涯学習活動の拠点となっている施設として活用できた。

- ・ 市民の自主的な生涯学習活動の場を提供することは、市民サークルまたは団体等の学習を通じて自分づくりを進め、更に学びの成果が地域づくりへつながっていくことから、施設の管理を適切に行い、利用しやすい環境を維持することができた。

- ・ 宇ノ気生涯学習センターにおいては、10月に子育て世代へのサポート施設として、子ども総合センター「おひさま」を開設したことにより、大幅な増加につながった。

< 課題 >

- ・ 市民の生涯学習活動の拠点施設として、各種講座・教室の開催利用を図る必要がある

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
七塚、宇ノ気生涯学習センターの 年間利用者数	24,802 (H20～24の平均)	32,603	49,901	26,000

基本的方向 6 - (3) スポーツ施設整備の推進と活用

達成状況

B

施設の統合計画の推進

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・かほく市体育施設整備計画（平成 23 年度～平成 25 年度）に基づく施設整備により、拠点となる体育施設の整備は平成 26 年度までに概ね終了しており、新たな計画等はない状況である。
- ・弓道場の施設整理について、協会の意向を確認するも取り纏めは困難な状況であった。
- ・宇ノ気野球場設備の経年劣化対応について検討を行った。

< 課題 >

- ・体育施設整備計画による整備は終了したが、弓道場の施設整備が未了となっている。また、現状維持となっている宇ノ気野球場も老朽化が進んでおり、体育施設のみならず隣接する児童公園などを含めた公園全体としての整備を関係所管及び関係団体との協議を行いながら進めていく必要がある。

施設機能の充実・強化

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・河北台健民体育館トレーニングセンターの有酸素運動機器のテレビを更新した。（13 台）
- ・スポーツ振興くじ助成金を受けて、河北台健民体育館のトレーニング機器を購入した。
 - 概要 -
 - トレッドミル 5 台
 - クロストレーナー 2 台
- ・平成 28 年度のうのけ総合公園陸上競技場第 3 種公認の更新に向けた備品を購入。
- ・サッカー・ラグビー競技場防球ネットを設置。
- ・アクロス高松地盤沈下補修工事で、玄関前付近の整地。
- ・高松グラウンド・ゴルフ場大雨被害復旧工事を実施。（平成 27 年 6 月）
- ・河北台健民体育館用具庫屋根改修工事。

< 課題 >

- ・各施設の改修を順次行っているが、施設の経年劣化による新たな不具合も生じてきており、今後一層改修工事の増大が見込まれる。平成 28 年度に予定している「公共施設等総合管理計画」の内容も踏まえ、今後、体育施設全体としての施設の長寿命化計画の策定に向け関係団体と協議し、計画的な営繕を行う必要がある。

効率的な管理・運営

担当課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・23 の体育施設のうち、宇ノ気スポーツセンターを除く 22 施設の管理を指定管理者に委託した。施設使用料については、利用料金制度（施設利用料を指定管理者の収入とする制度）をとっている。利用者の増が利用料収入の増額につながるため、指定管理者に対しては経営改善・努力への取組を促進する効果がある。その結果、利用者サービスの向上や効率的な管理運営が図られるものと考えられる。

< 課題 >

- ・指定管理者には、施設の空き時間の活用策の検討とより効率的な運営を進めるよう求めていく必要がある。

学校体育施設の有効活用

担 当 課

生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・かほく市立学校施設利用条例の規定に基づき、すべての学校施設開放を行った。
- ・スポーツ少年団加盟団体や総合型地域スポーツクラブ加盟団体を中心に、主にスポーツ団体によって定期的に利用された。利用に当たっては、学校と綿密な連携を取り、学校行事等の把握に努めることで、学校教育上支障をきたさないように学校開放を行うことができた。

< 課題 >

- ・今後も学校との連携を図りながら、社会教育活動や公共的利用に対して学校施設の有効活用を図っていくことが必要である。

(参考) 利用できる学校施設

高松中学校 (校舎、屋外運動場、屋内運動場) 河北台中学校 (校舎、屋外運動場、講堂)

宇ノ気中学校 (校舎、屋外運動場)

高松・大海・七塚・外日角・宇ノ気・金津小学校 (屋外運動場、屋内運動場)

利用条件: 市内在住者、在勤者及び在学者 10 人以上で構成され、かつ、責任者としての成人を含む団体が、学校教育上支障がないと認められる限り、社会教育その他公共のために利用する場合。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
市内スポーツ施設の総利用者数	562,243	608,793	627,046	563,000

基本的方向 7 - (1) 多文化共生社会および国際化に対応した教育の充実

達成状況

B

国際交流事業の推進	
担当課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月28日から6月3日まで、ドイツメスキルヒ市との姉妹都市提携30周年記念事業として、ツヴィック市長をはじめとする26人の訪問団をかほく市に迎えて、記念式典や市民交流音楽会などを開催し、両市の絆をより一層深めることができた。 ・ 10月19日から28日まで、姉妹都市青少年交流としてメスキルヒ市の中・高校生18人と引率者2人を受け入れ、かほく市民との交流、学校見学、市内外の見学を通して異文化交流を図ることができた。 ・ 8月20日から23日にかけて開催した第28回JAPAN TENTかほく市プログラムでは、かほく市内の11家庭が留学生17名を受け入れ、異文化交流を行った。 ・ 姉妹都市交流青少年派遣事業の事前・事後研修会において、メスキルヒ市のホストファミリーへのEメールの書き方、手紙の書き方を指導し、IT技術を活用した市民による草の根レベルでの交流を図った。 ・ 市国際交流協会へ補助金を交付し、活動の支援を行った。また、市国際交流協会からの要請に応じ、ドイツ語教室や各種イベントへの国際交流員(CIR)の派遣を行ったほか、市国際交流協会が実施する事業の周知を、市広報や「いいメールかほく」を通じて行った。さらに、JAPAN TENT事業や姉妹都市青少年派遣事業の計画・運営面を、市国際交流協会と協力して行った。 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの市民が参加できる国際交流事業が必要である。 ・ IT技術を活用した交流の促進について、SNSやインターネット電話サービスの活用についても呼びかけ、市民レベルでのさらなる交流拡大を目指す必要がある。 ・ 市と市国際交流協会との連携については、今後も協力して相互の事業を展開していくとともに、それぞれの役割を明確にし、効率の良い運営を図る必要がある。 	

多様な文化に対する理解の推進	
担当課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の多文化共生への理解を推進するため、6月21日に映画上映会及びその後の意見交換会を実施した。 (映画:「HAFU(ハーフ)」、映画上映会参加者:26人、意見交換会参加者:一般市民6人) ・ 2ヶ月に1回、市広報紙に多文化共生に関する記事(記事名:「考えてみよう 多文化共生のこと」、ページ数:1/2P)を掲載し、毎月1回、国際交流員(CIR)による国際交流・国際理解に関する記事を掲載した。 (記事名:「カティアのちょっとツイート」「イレネのグリアスデイ」、ページ数:1/2P) <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の多文化共生に関する理解を促進するため、多国籍の人と市民が交流する場を創出する必要がある。 ・ 異文化交流、国際交流の事業展開に際しては、国際交流協会と連携・協働を進める必要がある。 	

実践的な外国語教育の充実

担 当 課

学校教育課・生涯学習課

< 取組内容・成果 >

- ・市内小中学校の英語活動及び英語授業を推進するため、外国青年招致事業により、外国語指導助手（ALT）3名を配置した。
- ・教職員と外国語指導助手（ALT）によるTT授業を通して「効果的なTT授業の進め方」について研究協議をした。また、金沢教育事務所の指導主事から「今後の外国語活動の最新情報」についての情報提供や「効果的なTT授業の進め方や評価」について指導助言を受けた。
- ・市民の国際交流・国際理解への関心を高めるため、国際交流員（CIR）を、かほく市出前講座、中央図書館でのおはなし会、子育て支援センター、保育園、小中学校、市国際交流協会の行事等へ派遣した。
- ・国際交流員の市行事への派遣については 40 回を数えたほか、市民団体や学校からの要請による派遣（かほく市出前講座、小中学校、かほく市国際交流協会の行事）が 38 回を数えた。対象者の属性（年齢・性別）に偏りなく、多くの市民と交流する機会となった。

< 課題 >

- ・子どもたちが外国語に慣れ、異国の文化や習慣等を理解し、コミュニケーションできる力を高める必要がある。
- ・国際交流員の市民団体や学校からの要請による派遣回数、市の事業として実施している派遣回数を上回ることが望ましい。そのためには、現在実施している市民団体や学校からの要請による派遣の内容を充実させ、市民の関心を高めることが必要である。
- ・小学校1年生からの外国語活動について、平成30年度の学習指導要領改訂を見越した対応を検討する必要がある。
- ・現在、ALTは中学校を拠点として、その校区の小中学校2校の授業を受け持っているが、その配置が固定的であることから、短期的な配置転換を行うことによって、幅広い児童生徒との交流の機会を設ける必要がある。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
国際理解教室等開催数(CIR 派遣)	50	91	78	71

基本的方向 7 - (2) 人権教育の推進

達成状況

B

学校における人権教育	
担当課	学校教育課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科、道徳など教育活動全体を通じた人権教育の推進に取り組んだ。特に人権週間の期間においては、各校で人権講演会を企画するなど人権意識の高揚を図った。 金沢地方法務局及び市民生活課と連携を図り、「人権の花」運動、人権教室、人権問題講演会などを実施した。 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 広く地域の人材を活用した人権教育の推進が必要である。 各校の人権教育に関する年間計画の進捗状況を把握する場が必要である。 人権週間における各校の取組が一層充実したものとなるよう努めていきたい。 	

人権意識の向上に向けた活動の推進	
担当課	生涯学習課
<p>< 取組内容・成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 市民生活課人権擁護担当との共催により、10月10日に人権に関する映画の上映会及び人権教室を実施し、一般市民250人が来場した。映画は「ぼくたちの家族」を上映し、上映前に行った人権教室では、法務省の人権イメージキャラクター「人KENまもる君」と「人KENあゆみちゃん」が来場し、人権への理解を啓発した。また、映画上映会の来場者には、パンフレットやクリアファイル等の人権啓発グッズを配布した。 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 人権意識の啓発活動をさらに進める必要がある。 映画上映会は、多数の参加を得ることができ、効果的な啓発の機会となることから、今後も継続して行っていく必要がある。併せて、チラシの全戸配布やいいメールかほく、ホームページへの掲載等により、事業周知を徹底する必要がある。 	

資 料

1 教育長・教育委員会委員名簿

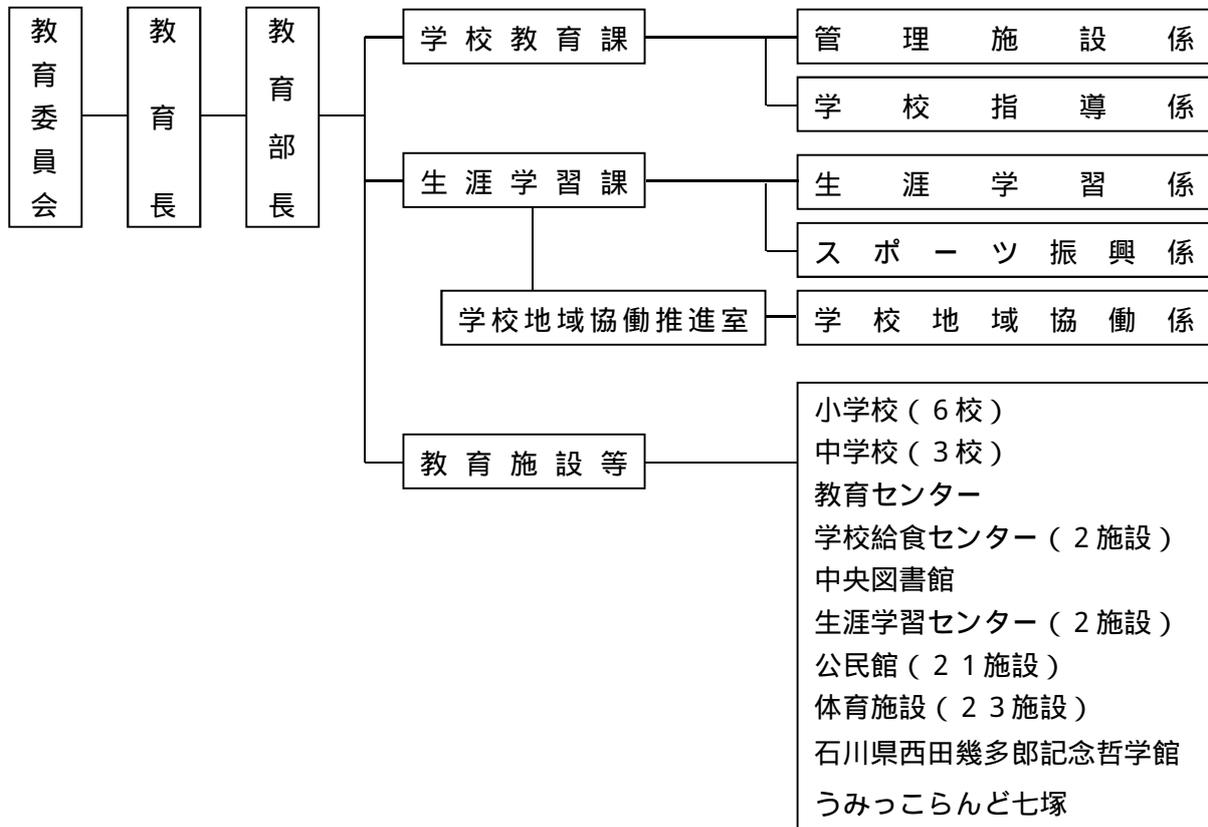
(平成28年5月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	山 越 充	平成28年4月28日～平成31年4月27日
教育長職務代理者	山 本 滝 男	平成26年4月28日～平成30年4月27日
教 育 委 員	松 井 三 枝 子	平成25年4月28日～平成29年4月27日
教 育 委 員	長 柄 悦 子	平成27年4月28日～平成31年4月27日
教 育 委 員	南 文 夫	平成28年4月28日～平成32年4月27日

職 名	区 分	氏 名	退 任 年 月 日
教 育 長	退 任	遠 田 敏 博	平成28年4月27日
教 育 委 員	退 任	寺 西 哲 秀	平成28年4月27日

2 教育委員会の組織

(平成28年4月1日現在)



3 教育機関等

(1) 小学校

(平成28年5月1日現在)

名称	開設年月日	児童数
かほく市立高松小学校	明治 6 年	381人
かほく市立大海小学校	明治 8 年 1 月	95人
かほく市立七塚小学校	明治 6 年 7 月 4 日	251人
かほく市立外日角小学校	明治 8 年 1 1 月 1 7 日	390人
かほく市立宇ノ気小学校	明治 8 年 4 月 1 0 日	660人
かほく市立金津小学校	明治 6 年 1 1 月	87人

(2) 中学校

(平成28年5月1日現在)

名称	開設年月日	生徒数
かほく市立高松中学校	昭和22年 4 月 1 日	291人
かほく市立河北台中学校	昭和32年 4 月 1 日	349人
かほく市立宇ノ気中学校	昭和22年 4 月 1 日	463人

(3) 教育センター

(平成28年4月1日現在)

かほく市教育センター	
------------	--

(4) 学校給食施設

(平成28年4月1日現在)

かほく市第1学校給食センター	かほく市第2学校給食センター
----------------	----------------

(5) 社会教育施設

(平成28年4月1日現在)

かほく市立中央図書館	かほく市七塚生涯学習センター
かほく市宇ノ気生涯学習センター	石川県西田幾多郎記念哲学館
かほく市うみっこらんど七塚	かほく市高松公民館
かほく市二ツ屋公民館	かほく市長柄町公民館
かほく市木津公民館	かほく市松浜公民館
かほく市遠塚公民館	かほく市浜北公民館
かほく市秋浜公民館	かほく市外日角公民館
かほく市白尾公民館	かほく市森公民館
かほく市指江公民館	かほく市至誠が丘公民館
かほく市気屋公民館	かほく市宇気公民館
かほく市七窪公民館	かほく市宇野気公民館
かほく市内日角公民館	かほく市大崎公民館
かほく市金津公民館	かほく市上田名公民館

(6) 社会体育施設

(平成28年4月1日現在)

かほく市高松体育センター	かほく市七塚体育センター
かほく市宇ノ気体育センター	かほく市河北台健民体育館
かほく市宇ノ気南部体育館	かほく市宇ノ気新化館
かほく市金津体育館	かほく市七窪体育館
かほく市宇ノ気スポーツセンター	かほく市河北台体育館
かほく市宇ノ気体育館	かほく市うのけ総合公園陸上競技場
かほく市サッカー・ラグビー競技場	かほく市七塚中央公園多目的運動広場
かほく市高松野球場	かほく市宇ノ気野球場
かほく市金津ソフトボール場	かほく市七塚テニスコート
かほく市高松グラウンド・ゴルフ場	かほく市七塚武道館
かほく市高松弓道場	かほく市宇ノ気弓道場
かほく市アクロス高松	

4 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成27年度

かほく市教育委員会点検及び評価報告書

発行年月：平成28年 8月

発行者：かほく市教育委員会

学校教育課 TEL 076-283-7136 / FAX 076-283-3643
E-mail : gakkou@city.kahoku.ishikawa.jp
生涯学習課 TEL 076-283-7137 / FAX 076-283-3643
E-mail : syougai@city.kahoku.ishikawa.jp

〒929-1195 石川県かほく市宇野気二81番地(かほく市役所内)

URL : <http://www.city.kahoku.ishikawa.jp/>